

直近事業年度における事業の概況.....	84	(5) 特別勘定を設けた最低保証のある保険契約に係る一般勘定における責任準備金、算出方法、計算の基礎となる係数..... (該当ありません) 118
直近5事業年度における主要な業務の状況を示す指標.....	85	(6) 保険業法第121条第1項第1号の確認(第三分野保険に係るものに限る。)の合理性及び妥当性..... 118
<b>財産の状況</b>		(7) 契約者配当準備金明細表..... 119
1. 貸借対照表.....	86	(8) 引当金明細表..... 119
2. 損益計算書.....	87	(9) 特定海外債権引当勘定の状況..... (該当ありません) 119
3. キャッシュ・フロー計算書.....	88	(10) 資本金等明細表..... (該当ありません) 119
4. 内部統制報告書.....	97	(11) 保険料明細表..... 119
5. 独立監査人の監査報告.....	98	(12) 保険金明細表..... 119~120
6. 株主資本等変動計算書..... (該当ありません) 98		(13) 年金明細表..... 120
7. 債務者区分による債権の状況.....	98	(14) 給付金明細表..... 120
8. リスク管理債権の状況.....	98	(15) 解約返戻金明細表..... 120
9. 元本補填契約のある信託に係る貸出金の状況..... (該当ありません) 98		(16) 減価償却費明細表..... 121
10. 保険金等の支払能力の充実の状況(ソルベンシー・マージン比率).....	99	(17) 事業費明細表..... 121
11. 実質純資産額.....	99	(18) 税金明細表..... 121
12. 有価証券等の時価情報(会社計).....	100~104	(19) リース取引..... (該当ありません) 121
13. 債券(買入金銭債権を含む)・一般貸付の信用格付別残高.....	104	(20) 借入金等残存期間別残高..... 121
14. 経常利益等の明細(基礎利益).....	105	4. 資産運用に関する指標等
15. 代表者による財務諸表の適正性及び財務諸表作成に係る内部監査の有効性に関する確認書.....	106	(1) 資産運用の概況
16. 継続企業の前提に重要な疑義を生じさせる事象または状況..... (該当ありません) 106		① 平成26年度の資産運用の概況..... 122
<b>業務の状況を示す指標等</b>		② ポートフォリオの推移..... 123
1. 主要な業務の状況を示す指標等		(2) 運用利回り..... 124
(1) 保有契約高及び新契約高.....	107	(3) 主要資産の平均残高..... 124
(2) 年換算保険料.....	107	(4) 資産運用収益明細表..... 124
(3) 保障機能別保有契約高.....	108~109	(5) 資産運用費用明細表..... 124
(4) 個人保険及び個人年金保険契約種類別保有契約高.....	109	(6) 利息及び配当金等収入明細表..... 124
(5) 商品別新契約高.....	110	(7) 有価証券売却益明細表..... 124
(6) 商品別保有契約高.....	111	(8) 有価証券売却損明細表..... 124
(7) 異動状況の推移.....	112~113	(9) 有価証券評価損明細表..... 124
(8) 契約者配当の状況.....	114~115	(10) 商品有価証券明細表..... (該当ありません) 124
2. 保険契約に関する指標等		(11) 商品有価証券売買高..... (該当ありません) 124
(1) 保有契約増加率.....	116	(12) 有価証券明細表..... 125
(2) 新契約平均保険金及び保有契約平均保険金(個人保険).....	116	(13) 有価証券残存期間別残高..... 125
(3) 新契約率(対年度始).....	116	(14) 保有公社債の期末残高利回り..... 125
(4) 解約失効率(対年度始).....	116	(15) 業種別株式保有明細表..... 126
(5) 個人保険新契約平均保険料(月払契約).....	116	(16) 貸付金明細表..... 126
(6) 死亡率(個人保険主契約).....	116	(17) 貸付金残存期間別残高..... 127
(7) 特約発生率(個人保険).....	116	(18) 国内企業向け貸付金企業規模別内訳..... 127
(8) 事業費率(対収入保険料).....	116	(19) 貸付金業種別内訳..... 128
(9) 保険契約を再保険に付した場合における、再保険を引き受けた主要な保険会社等の数.....	116	(20) 貸付金使途別内訳..... 128
(10) 保険契約を再保険に付した場合における、再保険を引き受けた保険会社等のうち、支払再保険料の額が大きい上位5社に対する支払再保険料の割合.....	116	(21) 貸付金地域別内訳..... 129
(11) 保険契約を再保険に付した場合における、再保険を引き受けた主要な保険会社等の格付機関による格付に基づく区分ごとの支払再保険料の割合.....	117	(22) 貸付金担保別内訳..... 129
(12) 未だ収受していない再保険金の額.....	117	(23) 有形固定資産明細表..... 129
(13) 第三分野保険の給付事由又は保険種類の区分ごとの、発生保険金額の経過保険料に対する割合.....	117	(24) 固定資産等処分益明細表..... (該当ありません) 129
3. 経理に関する指標等		(25) 固定資産等処分損明細表..... 130
(1) 支払備金明細表.....	117	(26) 賃貸用不動産等減価償却費明細表..... (該当ありません) 130
(2) 責任準備金明細表.....	117	(27) 海外投融資の状況..... 130~131
(3) 責任準備金残高の内訳.....	118	(28) 海外投融資利回り..... 132
(4) 個人保険及び個人年金保険の責任準備金の積立方式、積立率、残高(契約年度別).....	118	(29) 公共関係投融資の概況(新規引受額、貸出額)..... 132
		(30) 各種ローン金利..... 132
		(31) その他の資産明細表..... 132
		5. 有価証券等の時価情報(一般勘定)..... 100~104, 132
		<b>特別勘定に関する指標等</b> ..... (該当ありません) 132
		<b>保険会社及びその子会社等の状況</b> ..... (該当ありません) 132

# 直近事業年度における事業の概況

## 経営環境

### ● マクロ経済

平成26年度の国内景気は、安倍政権が展開する「アベノミクス」により、企業収益の改善、雇用・賃金の増加、個人消費の底堅い動きがみられるなど、緩やかな回復傾向が続きました。一方で、世界に類をみない急速な少子高齢化のなかで、経済成長と社会保障制度改革、財政再建等を両立させていくための難しい舵取りが求められており、依然として社会保障制度や財政再建に対する不透明感が影を落としている状況にありました。

### ● 生命保険業界

生命保険業界においては、社会保障に対する不安や少子高齢化の進行に歯止めがかかる兆しがみられないことなどから、第三分野商品に対する消費者ニーズの高い状態が継続しました。

こうした状況のもと、生命保険会社各社は医療保障・介護保障等を中心に積極的に新商品を投入したことから、第三分野市場における競争は引き続き激化しました。また、各社は、国際会計基準の適用や経済価値ベースのソルベンシー規制の導入を見据えた財務・資本基盤の充実やリスク管理態勢の強化に注力したほか、お客様情報の保護、お客様満足度の向上、ダイバーシティの推進等に関する取り組みを行いました。

## 事業の経過及び成果

当社では、「アフラック日本社中期経営方針（平成26～28年）」に基づき「平成26年経営方針」を定め、『強靱な経営基盤』の構築に向けた取り組みを継続し、「次代の更なる成長につなげていくための起点的年」と位置付けました。当該経営方針に基づき、当社では以下に掲げる各分野において、さまざまな施策を実施しました。

### ● 営業・マーケティング分野

平成26年9月に〈新 生きるためのがん保険 Days〉を発売しました。この新商品においては、三大治療（手術・放射線・抗がん剤）に対する保障の標準装備、診断時や通院時の保障の強化、保険料払込期間等のバリエーションの拡充に加え、がん専門相談サービス「プレミアムサポート」をすべてのプランで利用できるようにするなど、お客様の利便性のさらなる向上を図りました。

販売チャネル政策については、平成25年7月に締結した日本郵政株式会社との包括的業務提携に基づき、平成26年7月に株式会社かんぽ生命における当社がん保険の新規取扱を開始しました。日本郵便株式会社においては、前述の包括的業務提携により取扱局を順次拡大し、平成26年10月からは10,022局に拡大しました。これらの取扱局に対しては、取扱開始時だけでなく、その後も定期的に研修を実施しています。

既存チャネルである「コーポレート」（主に系列法人代理店）、「リテール」（主に独立法人・個人代理店）については、がん保険新商品の販売に向けた販売代理店（アソシエイツ）への研修を行うなど、販売の強化に取り組まれました。また、「保険窓販」については、金融機関の業態・特性に応じた営業推進策の強化に取り組まれました。

### ● お客様保護等管理分野

個人保険分野（個人保険・個人年金保険）において、多くのお客様からのご契約をお預かりする保険会社としての責任を認識し、引き続きお客様保護及び内部管理態勢のさらなる強化に取り組まれました。

保険金等支払管理については、支払査定・検証態勢の整備により引き続き支払漏れ等を削減することができました。また、支払漏れ等が発生した場合は、経営陣へ即日報告するなど、経営陣の監視態勢も継続して維持しました。

お客様サポート等の管理については、引き続き苦情等の「お客様の声」データベースへの登録を全社的に推進するとともに、高齢者に関する苦情など「お客様の声」の発生状況の分析と関係部署との連携を通して、お客様サービスの向上及び業務改善に取り組みました。さらに、保険料が払い済みとなり当社との接点が希薄になった一部の高齢のお客様を対象に、お客様の現況を確認する取り組みを開始しました。

お客様情報の管理については、当社から一定量以上の顧客情報を提供するアソシエイツを対象とした、外部のセキュリティ専門家による深度ある訪問点検や、アソシエイツが外部委託する際の当社への事前申請や定期点検に関するルールの改定等、アソシエイツにおける顧客情報管理態勢を強化しました。また、当社からアソシエイツへお客様情報を提供する際の社内審査やアソシエイツへ安全に情報提供を可能とするシステム開発等、当社におけるお客様情報の管理態勢を強化する取り組みを継続して行いました。

### ● 資産運用・資産運用リスク管理分野

当社の運用方針に従い、引き続き日本国債を中心に円建長期確定利付資産の購入を行う一方で、ポートフォリオの収益性向上とリスク分散の観点から、為替リスクを限定しつつ、外貨建債券等の積み増しを行いました。

資産運用リスク管理については、リスク計測手法の精緻化に加え、与信先の信用モニタリング態勢の強化、ポートフォリオのリスク特性や外部環境の変化を踏まえたストレスシナリオの策定に取り組まれました。

また、リスク管理の高度化に向けた取り組みとして、経済価値に基づく統合リスク管理のフレームワークの導入について準備を進め、平成27年1月より正式に導入しました。

### ● システムリスク管理分野

経営陣による主体的かつ積極的な関与のもと、「システムリスク管理態勢のさらなる強化」「品質の高い安定的なシステムサービスの提供」「より強固なITセキュリティ対策の推進」に取り組まれました。

具体例には、優先業務等に重大な影響を与える業務委託先のシステムリスク評価を開始し、システムリスク管理態勢のさらなる強化を図りました。

また、サイバー攻撃による被害等を未然に防止するため、内外環境変化に応じたさらなる強化策を検討のうえ対策実施を行ったほか、米日本社と共同でアフラック全体としてのITセキュリティ管理態勢を強化しました。特に、グローバルな危機に発展する可能性のあるサイバー攻撃が昨今増大していることを受け、日米双方の経営陣の積極的な関与のもと、日米共同でサイバー攻撃に関する対応態勢の構築に着手するとともに、「金融ISAC」等を通じてサイバーセキュリティに関する情報を積極的に収集するなど、緊急事態への対応強化に努めています。

### ● 社会貢献・がん啓発に関する分野

“生きる”をテーマに社会貢献活動を引き続き推進しました。当社は、「CSV（Creating Shared Value）経営」を表明し、社会貢献活動においてもこのCSV経営を具現化した活動に取り組んでいます。

具体的には、難病と闘う子どもとその家族を支援する「アフラックペアレンツハウス」の運営、「アフラックがん遺児奨学金・アフラック小児がん経験者奨学金制度」や小児がんに対する理解促進を目的とした「ゴールドリボン運動」の推進支援の事業を継続的に実施しました。

また、政府が策定した「がん対策推進基本計画」に基づき、「がんに関する啓発及びがん検診の受診率向上に関する提携」を推進し、110地方自治体（47都道府県と政令指定都市をはじめとする63市区町／平成26年度末）との提携関係を構築しています。さらに、このネットワークを活用し、自治体とともにがんに対する正しい知識の普及・啓発を目的としたセミナーやがんに関する情報の展示会を全国各地で開催しました。

# 直近5事業年度における主要な業務の状況を示す指標

## ● フロー指標

(単位:百万円)

項目	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
経常収益	1,595,366	2,054,538	2,275,659	1,959,430	1,848,071
うち保険料等収入	1,370,749	1,753,548	1,995,885	1,675,768	1,531,663
うち資産運用収益	224,301	300,821	279,536	282,948	314,987
うち利息及び配当金等収入	216,803	222,180	234,873	269,199	288,845
経常費用	1,569,783	1,937,487	2,144,517	1,654,591	1,397,597
うち保険金等支払金	590,590	621,034	644,595	681,317	707,558
うち責任準備金等繰入額	517,425	845,188	1,088,891	617,001	340,785
うち資産運用費用	151,744	153,933	78,937	26,287	16,425
うち事業費	291,422	297,807	310,964	310,853	308,234
経常利益	25,583	117,051	131,141	304,839	450,474
当期純利益	13,745	56,759	96,000	199,774	294,293
基礎利益	165,899	202,844	162,349	325,222	452,965
新契約件数(千件)	1,655	1,786	1,755	1,557	1,558
うちがん保険	653	773	649	600	814
うち医療保険	645	544	563	702	565
新契約年換算保険料	108,674	119,275	128,323	102,041	93,132
うち第三分野	64,230	60,302	57,737	60,823	66,796

- (注) 1. 新契約件数は、個人保険・個人年金保険の合計です。また、同件数は、転換後契約を含んでいます。なお、当社では、団体保険・団体年金保険の取り扱いはありません。  
 2. 年換算保険料とは、1回あたりの保険料について保険料の支払方法に応じた係数を乗じ、1年あたりの保険料に換算した金額です(一時払契約等は、保険料を保険期間で除した金額)。  
 3. 新契約年換算保険料は、転換による純増加を含んでいます。

## ● スtock指標

(単位:百万円)

項目	平成22年度末	平成23年度末	平成24年度末	平成25年度末	平成26年度末
総資産	6,902,596	7,807,850	9,180,249	10,078,949	10,742,835
うち特別勘定資産	—	—	—	—	—
有価証券残高	5,125,438	6,230,737	7,579,646	8,724,509	9,534,817
貸付金残高	1,450,480	1,302,949	1,197,678	1,097,216	1,026,738
責任準備金残高	6,479,070	7,324,187	8,408,036	9,021,296	9,362,081
純資産の部合計	194,908	272,758	422,000	524,070	814,233
うち資本金及び発行済株式の総数	—	—	—	—	—
ソルベンシー・マージン比率(%)	919.3				
※上段は旧基準、下段は新基準	(512.2)	609.6	684.8	775.2	898.0
実質純資産額	554,563	723,357	1,159,006	1,346,546	2,104,929
保有契約件数(千件)	21,015	21,829	22,574	22,979	23,316
うちがん保険	14,533	14,689	14,699	14,672	14,729
うち医療保険	4,550	4,843	5,146	5,431	5,638
保有契約年換算保険料	1,202,047	1,253,708	1,313,776	1,343,084	1,361,196
うち第三分野	1,017,612	1,022,151	1,023,343	1,022,986	1,025,914
保有契約高	11,045,735	12,338,254	14,059,499	14,488,762	14,572,641
うち個人保険	10,290,067	11,453,021	13,028,761	13,263,201	13,289,344
うち個人年金保険	755,668	885,232	1,030,737	1,225,561	1,283,296
うち団体保険	—	—	—	—	—
団体年金保険保有契約高	—	—	—	—	—

- (注) 1. 平成22年内閣府令第23号、平成22年金融庁告示第48号により、ソルベンシー・マージン総額及びリスクの合計額の算出基準について一部変更(マージン算入の厳格化、リスク計測の厳格化・精緻化等)がなされています。そのため、平成22年度末、平成23～26年度末はそれぞれ異なる基準によって算出されています。なお、平成22年度末の( )は、平成23年度における基準を平成22年度末に適用したと仮定し、平成23年3月期に開示した数値です。  
 2. 保有契約件数は、個人保険・個人年金保険の合計です。なお、当社では、団体保険・団体年金保険の取り扱いはありません。  
 3. 年換算保険料とは、1回あたりの保険料について保険料の支払方法に応じた係数を乗じ、1年あたりの保険料に換算した金額です(一時払契約等は、保険料を保険期間で除した金額)。  
 4. 保有契約高は、個人保険・個人年金保険の合計です。なお、個人年金保険については、年金支払開始前契約の年金支払開始時における年金原資と年金支払開始後契約の各時点における責任準備金を合計したものです。

## ● その他

項目	平成22年度末	平成23年度末	平成24年度末	平成25年度末	平成26年度末
営業拠点数	86	87	88	88	91
従業員数(名)	3,876	3,930	4,037	4,189	4,232
アソシエイツ数(店)	19,778	19,864	18,298	15,926	14,470
うち提携金融機関数	364	372	373	372	371
募集人数(名)	115,910	121,421	125,386	126,273	116,166

- (注) 1. アソシエイツ数には、日本郵便(1)が含まれています(第一生命、かんぽ生命及び大同生命は含まれていません)。  
 2. 募集人数については、提携金融機関、第一生命、日本郵便、かんぽ生命及び大同生命の募集人、個人アソシエイツ店主及び法人アソシエイツ代表者を除いています。

# 財産の状況

## 1. 貸借対照表

(単位:百万円、%)

科 目	年 度	平成25年度 (平成26年3月31日現在)		平成26年度 (平成27年3月31日現在)	
		金額	構成比	金額	構成比
<b>資産の部</b>					
現金及び預貯金		23,066	0.2	20,582	0.2
現金		1		2	
預貯金		23,064		20,579	
買入金銭債権		28,790	0.3	28,059	0.3
有価証券		8,724,509	86.6	9,534,817	88.8
国債		4,145,273		4,423,777	
地方債		42,049		52,206	
社債		172,198		163,839	
株式		1,763		2,035	
外国証券		4,363,224		4,892,958	
貸付金		1,097,216	10.9	1,026,738	9.6
保険約款貸付		15,122		16,747	
一般貸付		1,082,094		1,009,990	
有形固定資産		14,358	0.1	13,957	0.1
土地		4,973		4,973	
建物		8,541		8,058	
リース資産		204		359	
その他の有形固定資産		638		566	
無形固定資産		10,809	0.1	10,816	0.1
ソフトウェア		3,984		3,933	
リース資産		84		141	
その他の無形固定資産		6,740		6,740	
再保険貸		7,178	0.1	9,863	0.1
その他資産		105,761	1.0	106,146	1.0
未収金		21,258		20,594	
前払費用		9,881		9,331	
未収収益		61,239		65,776	
預託金		4,335		4,456	
金融派生商品		7,138		4,553	
仮払金		1,435		989	
その他の資産		471		445	
繰延税金資産		83,921	0.8	—	—
貸倒引当金		△16,667	△0.2	△8,152	△0.1
本支店勘定		6	0.0	6	0.0
<b>資産の部合計</b>		<b>10,078,949</b>	<b>100.0</b>	<b>10,742,835</b>	<b>100.0</b>
<b>負債の部</b>					
保険契約準備金		9,132,916	90.6	9,472,677	88.2
支払備金		111,283		110,296	
責任準備金		9,021,296		9,362,081	
契約者配当準備金		335		299	
代理店借		13,138	0.1	12,766	0.1
再保険借		8,415	0.1	11,681	0.1
その他負債		349,508	3.5	374,372	3.5
債券貸借取引受入担保金		292,795		261,144	
未払法人税等		18,819		57,942	
未払金		2,466		2,326	
未払費用		15,673		18,236	
預り金		1,840		2,359	
金融派生商品		13,318		27,410	
金融商品等受入担保金		—		747	
リース債務		292		504	
資産除去債務		1,661		1,671	
仮受金		2,632		2,024	
その他の負債		9		3	
退職給付引当金		9,527	0.1	9,350	0.1
価格変動準備金		38,687	0.4	42,410	0.4
繰延税金負債		—	—	1,930	0.0
本支店勘定		2,684	0.0	3,412	0.0
<b>負債の部合計</b>		<b>9,554,878</b>	<b>94.8</b>	<b>9,928,601</b>	<b>92.4</b>
<b>純資産の部</b>					
持込資本金		267	0.0	267	0.0
供託金		200	0.0	200	0.0
剰余金		460,851	4.6	543,761	5.1
繰越利益剰余金		460,851		543,761	
持込資本金等合計		461,319	4.6	544,228	5.1
その他有価証券評価差額金		62,751	0.6	270,004	2.5
評価・換算差額等合計		62,751	0.6	270,004	2.5
<b>純資産の部合計</b>		<b>524,070</b>	<b>5.2</b>	<b>814,233</b>	<b>7.6</b>
<b>負債及び純資産の部合計</b>		<b>10,078,949</b>	<b>100.0</b>	<b>10,742,835</b>	<b>100.0</b>

## 2. 損益計算書

(単位:百万円、%)

科 目	年 度	平成25年度 (平成25年4月1日から 平成26年3月31日まで)		平成26年度 (平成26年4月1日から 平成27年3月31日まで)	
		金額	百分比	金額	百分比
経常損益の部	経常収益	1,959,430	100.0	1,848,071	100.0
	保険料等収入	1,675,768	85.5	1,531,663	82.9
	保険料	1,652,901		1,495,219	
	再保険収入	22,866		36,444	
	資産運用収益	282,948	14.4	314,987	17.0
	利息及び配当金等収入	269,199		288,845	
	預貯金利息	9		2	
	有価証券利息・配当金	226,669		244,923	
	貸付金利息	41,769		43,190	
	その他利息配当金	751		729	
	有価証券売却益	12,776		7,820	
	有価証券償還益	674		1,791	
	為替差益	138		7,406	
	貸倒引当金戻入額	—		8,376	
	その他運用収益	159		746	
	その他経常収益	714	0.0	1,420	0.1
	支払備金戻入額	—		987	
	退職給付引当金戻入額	395		176	
	その他の経常収益	319		255	
	経常費用	1,654,591	84.4	1,397,597	75.6
	保険金等支払金	681,317	34.8	707,558	38.3
	保険金	73,755		74,272	
	年金	11,659		14,912	
	給付金	380,064		390,098	
	解約返戻金	176,798		180,423	
	その他返戻金	3,055		3,396	
	再保険料	35,984		44,455	
	責任準備金等繰入額	617,001	31.5	340,785	18.4
	支払備金繰入額	3,740		—	
	責任準備金繰入額	613,260		340,784	
	契約者配当金積立利息繰入額	0		0	
	資産運用費用	26,287	1.3	16,425	0.9
	支払利息	136		92	
	有価証券売却損	9,402		2,669	
	有価証券評価損	8,130		1,085	
	有価証券償還損	67		72	
	金融派生商品費用	6,439		10,167	
	貸倒引当金繰入額	1,733		—	
	貸付金償却	150		2,000	
	その他運用費用	228		338	
	事業費	310,853	15.9	308,234	16.7
	その他経常費用	19,131	1.0	24,593	1.3
	税金	17,276		22,811	
	減価償却費	1,854		1,781	
	経常利益	304,839	15.6	450,474	24.4
特別損益の部	特別利益	—	—	—	—
	特別損失	3,372	0.2	3,784	0.2
	固定資産等処分損	46		61	
	価格変動準備金繰入額	3,326		3,723	
	契約者配当準備金繰入額(△は戻入額)	△0	△0.0	△0	△0.0
	税引前当期純利益	301,467	15.4	446,689	24.2
	法人税及び住民税	95,801	4.9	147,854	8.0
	法人税等調整額	5,891	0.3	4,541	0.2
	法人税等合計	101,692	5.2	152,396	8.2
	当期純利益	199,774	10.2	294,293	15.9
	繰越利益剰余金(当期首残高)	337,877		460,851	
	本社送金	76,800		211,384	
	繰越利益剰余金	460,851		543,761	

### 3. キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	年 度	平成25年度 (平成25年4月1日から 平成26年3月31日まで)	平成26年度 (平成26年4月1日から 平成27年3月31日まで)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>			
税引前当期純利益(△は損失)		301,467	446,689
減価償却費		1,854	1,781
支払備金の増減額(△は減少)		3,740	△987
責任準備金の増減額(△は減少)		613,260	340,784
契約者配当準備金積立利息繰入額		0	0
契約者配当準備金繰入額		△0	△0
貸倒引当金の増減額(△は減少)		1,733	△8,376
退職給付引当金の増減額(△は減少)		△428	△176
価格変動準備金の増減額(△は減少)		3,326	3,723
利息及び配当金等収入		△269,199	△288,845
有価証券関係損益(△は益)		4,148	△5,785
貸付金償却		150	2,000
支払利息		136	92
金融派生商品損益(△は益)		6,410	10,155
為替差損益(△は益)		△362	△7,905
有形固定資産関係損益(△は益)		41	18
再保険貸の増減額(△は増加)		2,774	△2,685
その他資産(除く投資活動関連、財務活動関連)の増減額(△は増加)		△3,797	1,326
代理店借の増減額(△は減少)		△2,244	△372
再保険借の増減額(△は減少)		7,588	3,265
その他負債(除く投資活動関連、財務活動関連)の増減額(△は減少)		△7,315	3,123
その他		△35	16
<b>小 計</b>		<b>663,248</b>	<b>497,843</b>
利息及び配当金等の受取額		273,313	299,959
利息の支払額		△136	△92
契約者配当金の支払額		△37	△36
その他		—	△43
法人税等の支払額		△90,330	△108,697
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		<b>846,057</b>	<b>688,932</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>			
買入金銭債権の売却・償還による収入		2,081	1,532
有価証券の取得による支出		△2,903,890	△2,148,111
有価証券の売却・償還による収入		1,792,268	1,900,068
貸付けによる支出		△6,732	△7,100
貸付金の回収による収入		95,978	75,553
金融派生商品の決済による収支(純額)		△115,396	△270,521
債券貸借取引受入担保金の純増減額(△は減少)		292,795	△31,650
金融商品等受入担保金の純増減額(△は減少)		—	742
その他		—	2
<b>資産運用活動計</b>		<b>△842,896</b>	<b>△479,484</b>
(営業活動及び資産運用活動計)		(3,161)	(209,448)
有形固定資産の取得による支出		△380	△385
有形固定資産の売却による収入		1	—
無形固定資産の取得による支出		△3,085	△707
その他		△32	—
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		<b>△846,394</b>	<b>△480,577</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>			
リース債務の返済による支出		△151	△158
本店への送金による支出		△76,800	△211,384
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		<b>△76,951</b>	<b>△211,542</b>
<b>現金及び現金同等物に係る換算差額</b>		<b>75</b>	<b>703</b>
<b>現金及び現金同等物の増減額(△は減少)</b>		<b>△77,212</b>	<b>△2,484</b>
<b>現金及び現金同等物期首残高</b>		<b>100,278</b>	<b>23,066</b>
<b>現金及び現金同等物期末残高</b>		<b>23,066</b>	<b>20,582</b>

(現金及び現金同等物の範囲)

キャッシュ・フロー計算書における現金及び現金同等物は、手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から満期日または償還日までの期間が3ヵ月以内の定期預金等の短期投資からなっています。

重要な会計方針

平成25年度	平成26年度						
<p><b>1. 有価証券の評価基準および評価方法</b> 有価証券(買入金銭債権のうち有価証券に準じるものを含む)の評価は、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法(定額法)、「保険業における「責任準備金対応債券」に関する当面の会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会 業種別監査委員会報告第21号)に基づく責任準備金対応債券については移動平均法による償却原価法(定額法)、その他有価証券のうち時価のあるものについては、3月末日の市場価格等に基づく時価法(売却原価)の算定は移動平均法)、それ以外の有価証券については移動平均法による原価法によっています。 なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しています。</p> <p><b>2. 責任準備金対応債券</b> 当期より、個人保険・個人年金保険に設定した小区分(責任準備金の残存年数や保険商品又はこれらの組み合わせを用いることにより設定する)に対応した債券のうち、負債に応じたデュレーションのコントロールを図る目的で保有するものについて、「保険業における「責任準備金対応債券」に関する当面の会計上及び監査上の取扱い」(平成12年11月16日 日本公認会計士協会 業種別監査委員会報告第21号)に基づき、責任準備金対応債券に区分しています。</p> <p><b>3. デリバティブ取引の評価基準および評価方法</b> デリバティブ取引の評価は、時価法によっています。</p> <p><b>4. 有形固定資産の減価償却の方法</b> 有形固定資産の減価償却の方法は、次の方法によっています。 (1) 有形固定資産(リース資産を除く) 定率法(ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(附属設備、構築物を除く)については定額法)を採用しています。 (2) リース資産 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しています。 なお、取得価額が10万円以上20万円未満のものについては、3年間で均等償却を行っています。</p> <p><b>5. 外貨建資産等の本邦通貨への換算基準</b> 外貨建資産・負債は、3月末日の為替相場により円換算しています。</p> <p><b>6. 引当金の計上基準</b> (1) 貸倒引当金 貸倒引当金は、資産自己査定に基づく償却・引当要額に則り、貸倒実績率に基づき算定した額および個別に見積もった回収不能額を計上しています。 すべての資産は、資産自己査定規程に基づき、関連部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しており、その査定結果に基づいて上記の引当を行っています。 なお、Ⅳ分類に分類した債権のうち、直接償却を行っている金額は173百万円です。 (2) 退職給付引当金 退職給付引当金は、従業員の退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務および年金資産の見込額に基づき、計上しています。 退職給付債務並びに退職給付費用の処理方法は以下の通りです。 <table border="0" data-bbox="223 1388 782 1456"> <tr> <td>退職給付見込額の期間帰属方法</td> <td>期間定額基準</td> </tr> <tr> <td>数理計算上の差異の処理年数</td> <td>10年</td> </tr> <tr> <td>過去勤務費用の処理年数</td> <td>10年</td> </tr> </table> また、執行役員の退職給付に備えるため、役員規程に基づいた要支給額を退職給付引当金に含めて計上しています。</p> <p><b>7. 価格変動準備金の計上方法</b> 価格変動準備金は、保険業法第199条において準用する同法第115条の規定に基づき算出した額を計上しています。</p> <p><b>8. ヘッジ会計の方法</b> (1) ヘッジ会計の方法 ヘッジ会計の方法は、企業会計基準第10号「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準委員会)に従い、時価ヘッジ処理を採用しています。 (2) ヘッジ手段とヘッジ対象 ヘッジ手段として為替予約取引、金利スワップ取引を行い、ヘッジ対象は一部の外貨建債券としています。 (3) ヘッジ方針 資産運用に関する社内規程等に基づき、ヘッジ対象に係る為替リスク、外国金利リスクを一定の範囲内でヘッジしています。 (4) ヘッジの有効性評価の方法 ヘッジの有効性の判定は、ヘッジ対象とヘッジ手段の時価変動を比較する比率分析により行っています。</p> <p><b>9. 消費税等の会計処理</b> 消費税および地方消費税の会計処理は、税抜方式によっています。ただし、資産に係る控除対象外消費税等のうち、税法に定める繰延消費税等については、前払費用に計上し5年間で均等償却し、繰延消費税等以外のものについては、発生年度に費用処理をしています。</p>	退職給付見込額の期間帰属方法	期間定額基準	数理計算上の差異の処理年数	10年	過去勤務費用の処理年数	10年	<p><b>1. 有価証券の評価基準および評価方法</b> 同 左</p> <p><b>2. 責任準備金対応債券</b> 個人保険・個人年金保険に設定した小区分(責任準備金の残存年数や保険商品又はこれらの組み合わせを用いることにより設定する)に対応した債券のうち、負債に応じたデュレーションのコントロールを図る目的で保有するものについて、「保険業における「責任準備金対応債券」に関する当面の会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会 業種別監査委員会報告第21号)に基づき、責任準備金対応債券に区分しています。</p> <p><b>3. デリバティブ取引の評価基準および評価方法</b> 同 左</p> <p><b>4. 有形固定資産の減価償却の方法</b> 同 左</p> <p><b>5. 外貨建資産等の本邦通貨への換算基準</b> 同 左</p> <p><b>6. 引当金の計上基準</b> (1) 貸倒引当金 貸倒引当金は、資産自己査定に基づく償却・引当要額に則り、貸倒実績率に基づき算定した額および個別に見積もった回収不能額を計上しています。 すべての資産は、資産自己査定規程に基づき、関連部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しており、その査定結果に基づいて上記の引当を行っています。 なお、Ⅳ分類に分類した債権のうち、直接償却を行っている金額は172百万円です。 (2) 退職給付引当金 同 左</p> <p><b>7. 価格変動準備金の計上方法</b> 同 左</p> <p><b>8. ヘッジ会計の方法</b> (1) ヘッジ会計の方法 同 左 (2) ヘッジ手段とヘッジ対象 ヘッジ手段として為替予約取引、金利スワップ取引、通貨オプション取引を行い、ヘッジ対象は一部の外貨建債券としています。 (3) ヘッジ方針 同 左 (4) ヘッジの有効性評価の方法 同 左</p> <p><b>9. 消費税等の会計処理</b> 同 左</p>
退職給付見込額の期間帰属方法	期間定額基準						
数理計算上の差異の処理年数	10年						
過去勤務費用の処理年数	10年						

平成25年度	平成26年度
<p><b>10. 責任準備金の積立方法</b> 責任準備金は、保険業法第199条において準用する同法第116条の規定に基づく準備金であり、保険料積立金については次の方式により計算しています。 (1) 標準責任準備金の対象契約については、金融庁長官が定める方式(平成8年大蔵省告示第48号) (2) 標準責任準備金の対象とならない契約については、平準純保険料式 なお、平成10年大蔵省告示第231号および平成12年金融監督庁・大蔵省告示第22号に基づき実施した第三分野保険のストレステストおよび負債十分性テストの結果を踏まえ、当期末において、第三分野保険の一部の契約を対象として、保険料積立金6,270百万円を計上しています。</p> <p><b>11. 支払備金の積立方法</b> 支払備金は、保険業法第199条において準用する同法第117条の規定により算出した額を計上しています。</p> <p><b>12. 無形固定資産の減価償却の方法</b> 無形固定資産の減価償却の方法は、次の方法によっています。 (1) ソフトウェア 利用可能期間に基づく定額法によっています。 (2) リース資産 リース期間に基づく定額法によっています。 なお、取得価額が10万円以上20万円未満のものについては、3年間で均等償却を行っています。</p> <p><b>13. 表示方法の変更</b> 「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日)および「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日)にて定める注記の表示方法を当期より適用しています。</p> <p><b>14. 未適用の会計基準等に関する事項</b> 「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日)および「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日) (1) 概要 本会計基準等は財務報告を改善する観点および国際的な動向を踏まえ、未認識数理計算上の差異および未認識過去勤務費用の処理方法、退職給付債務および勤務費用の計算方法並びに開示の拡充を中心に改正されたものです。 (2) 適用予定日 平成26年度の期首より適用予定です。 (3) 当該会計基準の適用による影響 当該会計基準の適用による影響はありません。</p>	<p><b>10. 責任準備金の積立方法</b> 責任準備金は、保険業法第199条において準用する同法第116条の規定に基づく準備金であり、保険料積立金については次の方式により計算しています。 (1) 標準責任準備金の対象契約については、金融庁長官が定める方式(平成8年大蔵省告示第48号) (2) 標準責任準備金の対象とならない契約については、平準純保険料式 なお、平成10年大蔵省告示第231号および平成12年金融監督庁・大蔵省告示第22号に基づき実施した第三分野保険のストレステストおよび負債十分性テストの結果を踏まえ、当期末において、第三分野保険の一部の契約を対象として、保険料積立金6,470百万円を計上しています。</p> <p><b>11. 支払備金の積立方法</b> 同 左</p> <p><b>12. 無形固定資産の減価償却の方法</b> 同 左</p> <p><b>13. 会計方針の変更</b> 当期より、「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号)および「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号)を適用しています。 なお、当該会計基準の適用による影響はありません。</p>



注記事項

● 貸借対照表関係

平成25年度	平成26年度
<p>1. 金融商品の状況に関する事項および金融商品の時価等に関する事項は以下の通りです。</p> <p>(1) 金融商品の状況に関する事項</p> <p>①金融商品に対する取組方針</p> <p>当社は、終身保障型、平準払いのがん保険や医療保険を主力商品としており、中長期的に潤沢なキャッシュ・フローが見込まれていることから、これら保険商品の特性に見合ったポートフォリオを構築するべく、安全性の高い長期確定利付資産を運用資産の中核と位置付け、投資活動を行っています。</p> <p>なお、デリバティブについては、リスクを低減するためのヘッジ目的の取引を除いて原則禁止しており、投機目的では行わないこととしています。</p> <p>②金融商品の内容およびそのリスク</p> <p>当社の運用資産ポートフォリオは、円建ての長期確定利付資産(有価証券・貸付金)を中心に構成されています。有価証券・貸付金は、発行体や債務者の信用リスク、金利リスクおよびスプレッドリスク(クレジットスプレッドの変動により時価が下落するリスク)に晒されています。また当社では、外貨建公社債や、利息のみ外貨建ての確定利付資産(有価証券・貸付金)への投資も行っており、これらは為替リスクにも晒されています。</p> <p>この他、当社は債券貸借取引を行っており、取引先が破綻した場合には契約不履行により損失を被るリスクがあります。しかしながら貸付有価証券の時価の102%以上の現金を担保金として受け入れているため、リスクは僅少です。</p> <p>なお、当社が保有する株式は運用資産全体の0.1%未満であり、株価変動による運用資産ポートフォリオへの影響は殆どありません。</p> <p>デリバティブ取引については、外貨建債券の一部に関する外国金利リスクのヘッジ手段として金利スワップ取引を、為替リスクのヘッジ手段として為替予約取引を行っています。</p> <p>また、当社は一部デリバティブを内包する金融商品を保有しており、それらは金利・為替リスクの他、第三者の信用リスク、および取引先の契約不履行に係る信用リスクに晒されています。</p> <p>なお、当社ではデリバティブ取引先を信用度の高い金融機関に限定しています。</p> <p>③金融商品に係るリスク管理体制</p> <p>当社では、統合リスク管理を行うための基本的事項を定めた「統合リスク管理規程」に基づき、資産運用リスク量(市場関連リスク量、信用リスク量)にリミットを設定し、金利・為替リスク等の市場関連リスクの管理方法を定めた「市場関連リスク管理規程」、および信用リスクについての管理方法を定めた「信用リスク管理規程」に基づいて、バリュエーション・アット・リスク(VaR)を用いて計量化したリスク量がリミットの範囲内に収まるようコントロールしています。</p> <p>資産運用に係るリスクについては、リスク管理の状況を総合的に把握する「ERM委員会」のもとに設置された「資産運用リスク・ALM部会」において、資産運用リスクの主管部門より、市場関連リスク、信用リスク、流動性リスク等の月次モニタリング結果の報告が行われています。また、資産運用に係るリスク管理の状況について、資産運用リスク・ALM部会長よりERM委員会において定期的に報告されています。</p> <p>市場関連リスクについては、リスクを構成する要素である円金利リスク、外国金利リスク、為替リスク、株価変動リスク、スプレッドリスク毎に、バリュエーション・アット・リスク(VaR)を用いたリスク量の測定、モニタリングを月次で行い、許容されるリスク量の範囲内で適切な資産配分を行っています。</p> <p>信用リスクについては、格付に基づく想定デフォルト率、格付遷移確率、回収率等を用いてバリュエーション・アット・リスク(VaR)を測定し、信用リスク量としています。また、米国本社および日本社双方の審議、協議を踏まえて原則として投資適格銘柄への投資を行うとともに、保有資産の状況をモニタリングしており、信用状況に応じた各与信先に対する投資限度額を定めることで、与信集中を管理・抑制しています。</p> <p>流動性に関するリスクについては、金融市場の混乱による取引量の急減に起因する金融資産の市場流動性低下に備えて、換金性の高い資産を一定額以上保有するとともに、資金繰りリスクの顕在化を防止するため、一定水準以上の流動性の確保および迅速な対応ができるような体制を整備しています。</p> <p>④金融商品の時価等に関する事項についての補足説明</p> <p>金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれています。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件を採用することにより、当該価額が変動することがあります。</p>	<p>1. 金融商品の状況に関する事項および金融商品の時価等に関する事項は以下の通りです。</p> <p>(1) 金融商品の状況に関する事項</p> <p>①金融商品に対する取組方針</p> <p>同 左</p> <p>②金融商品の内容およびそのリスク</p> <p>当社の運用資産ポートフォリオは、円建ての長期確定利付資産(有価証券・貸付金)を中心に構成されています。有価証券・貸付金は、発行体や債務者の信用リスク、金利リスクおよびスプレッドリスク(クレジットスプレッドの変動により時価が下落するリスク)に晒されています。また当社では、外貨建公社債や、利息のみ外貨建ての確定利付資産(有価証券・貸付金)への投資も行っており、これらは為替リスクにも晒されています。</p> <p>この他、当社は債券貸借取引を行っており、取引先が破綻した場合には契約不履行により損失を被るリスクがあります。しかしながら貸付有価証券の時価の102%以上の現金を担保金として受け入れているため、リスクは僅少です。</p> <p>なお、当社が保有する株式は運用資産全体の0.1%未満であり、株価変動による運用資産ポートフォリオへの影響は殆どありません。</p> <p>デリバティブ取引については、外貨建債券の一部に関する外国金利リスクのヘッジ手段として金利スワップ取引を、為替リスクのヘッジ手段として為替予約取引および通貨オプション取引を行っています。</p> <p>また、当社は一部デリバティブを内包する金融商品を保有しており、それらは金利・為替リスクの他、第三者の信用リスク、および取引先の契約不履行に係る信用リスクに晒されています。</p> <p>なお、当社ではデリバティブ取引先を信用度の高い金融機関に限定しています。</p> <p>③金融商品に係るリスク管理体制</p> <p>当社では、統合リスク管理を行うための基本的事項を定めた「統合リスク管理規程」および管理方法を定めた「統合リスク管理要領」に基づき、資産運用リスク量(市場関連リスク量、信用リスク量)にリスク量の枠(リスク枠)を設定し、バリュエーション・アット・リスク(VaR)を用いて計量化したリスク量がリスク枠の範囲内に収まるようコントロールしています。</p> <p>資産運用に係るリスクについては、リスク管理の状況を総合的に把握する「ERM委員会」のもとに設置された「資産運用リスク・ALM部会」において、資産運用リスクの主管部門より、市場関連リスク、信用リスク、流動性リスク等の月次モニタリング結果の報告が行われています。また、資産運用に係るリスク管理の状況について、資産運用リスク・ALM部会長よりERM委員会において定期的に報告されています。</p> <p>市場関連リスクについては、リスクを構成する要素である円金利リスク、外国金利リスク、為替リスク、株価変動リスク、スプレッドリスク毎に、バリュエーション・アット・リスク(VaR)を用いたリスク量の測定、モニタリングを月次で行い、リスク枠の範囲内で適切な資産配分を行っています。</p> <p>信用リスクについては、格付に基づく想定デフォルト率、格付遷移確率、回収率等を用いてバリュエーション・アット・リスク(VaR)を測定し、信用リスク量としています。また、保有資産は投資適格銘柄を主体としており、信用状況に応じて与信先に対する投資限度額を定め、与信集中を管理・抑制したうえで、米国本社と連携して保有資産の個別の信用状況についてモニタリング・分析・評価を行っています。</p> <p>流動性に関するリスクについては、金融市場の混乱による取引量の急減に起因する金融資産の市場流動性低下に備えて、換金性の高い資産を一定額以上保有するとともに、資金繰りリスクの顕在化を防止するため、一定水準以上の流動性の確保および迅速な対応ができるような体制を整備しています。</p> <p>④金融商品の時価等に関する事項についての補足説明</p> <p>同 左</p>

## 平成25年度

## (2) 金融商品の時価等に関する事項

平成26年3月31日における主な金融資産および金融負債に係る貸借対照表計上額、時価およびこれらの差額については、次の通りです。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれていません。

(単位:百万円)

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1)現金及び預貯金	23,066	23,066	—
(2)買入金銭債権			
①満期保有目的の債券	2,107	2,201	94
②その他有価証券	19,327	19,327	—
③その他	7,355	7,656	301
小計	28,790	29,185	395
(3)有価証券			
①満期保有目的の債券	4,182,734	4,375,652	192,918
②責任準備金対応債券	1,417,458	1,448,617	31,159
③その他有価証券	3,123,956	3,123,956	—
貸倒引当金(*1)	△1	—	—
小計	8,724,147	8,948,226	224,078
(4)貸付金			
①保険約款貸付	15,122	15,122	—
②一般貸付	1,082,094	1,080,487	△1,606
貸倒引当金(*1)	△15,868	—	—
小計	1,081,348	1,095,610	14,262
資産計	9,857,352	10,096,088	238,736
債券貸借取引受入担保金	292,795	292,795	—
負債計	292,795	292,795	—
デリバティブ取引(*2)			
ヘッジ会計が適用されていないもの(*3)	(153)	(153)	—
ヘッジ会計が適用されているもの	(6,026)	(6,026)	—
デリバティブ取引計	(6,179)	(6,179)	—

(\*1) 有価証券、貸付金に対応する一般貸倒引当金および個別貸倒引当金を控除しています。

(\*2) 非上場株式を除きます。

(\*3) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、( )で示しています。

(\*4) 企業会計基準適用指針第12号「その他の複合金融商品(払込資本を増加させる可能性のある部分を含まない複合金融商品)に関する会計処理」に従って区分処理をしている複合金融商品の組込デリバティブの時価を表示しています。

## 資産

## ①現金及び預貯金

預金はすべて短期であり、時価は帳簿価額と近似していることから、帳簿価額を時価としています。

## ②買入金銭債権

買入金銭債権は、市場価格に準ずるものとして取引金融機関から提示された価格によっています。

## ③有価証券

有価証券は、市場価格があるものは市場価格に基づき、市場価格のないものは、以下のいずれかの方法により時価を算定しています。

a個別銘柄の信用リスクを反映させるため、参照可能なマーケット情報より、金融市場が想定する当該発行体の倒産確率を算定し、その倒産確率と債務履行順位別の期待回収率より推計した将来キャッシュ・フローを、無リスク金利で割り引くことで現在価値を算定する方法。

なお、コール条項が付されている場合、オプションの価値を考慮しています。

b取引金融機関または情報ベンダーから提供された価格に基づき算定する方法。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、非上場株式(貸借対照表計上額360百万円)です。

保有目的ごとの有価証券の時価等に関する状況は以下の通りです。

## 満期保有目的の債券

(単位:百万円)

	種類	貸借対照表計上額	時価	差額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	(1)公社債	2,512,287	2,695,439	183,152
	(2)外国証券	898,957	967,065	68,107
	(3)買入金銭債権	2,107	2,201	94
	小計	3,413,352	3,664,707	251,354
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	(1)公社債	—	—	—
	(2)外国証券	771,488	713,146	△58,341
	(3)買入金銭債権	—	—	—
	小計	771,488	713,146	△58,341
合計		4,184,841	4,377,854	193,012

満期保有目的の債券について、当期中の売却はありません。

従来、満期保有目的の債券に区分していた外国証券(額面金額56,500百万円)について、債券発行者の信用状態が著しく悪化したために、その他有価証券に変更しています。この変更に伴い、貸借対照表上の外国証券が13,590百万円減少、繰延税金資産が4,185百万円増加、その他有価証券評価差額金が9,404百万円減少しています。

## 平成26年度

## (2) 金融商品の時価等に関する事項

平成27年3月31日における主な金融資産および金融負債に係る貸借対照表計上額、時価およびこれらの差額については、次の通りです。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれていません。

(単位:百万円)

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1)現金及び預貯金	20,582	20,582	—
(2)買入金銭債権			
①満期保有目的の債券	1,724	1,815	91
②その他有価証券	19,713	19,713	—
③その他	6,622	6,825	203
小計	28,059	28,354	294
(3)有価証券			
①満期保有目的の債券	4,046,323	4,494,754	448,430
②責任準備金対応債券	1,756,945	1,902,566	145,620
③その他有価証券(*2)	3,731,186	3,731,186	—
貸倒引当金	△1	—	—
小計(*1)	9,534,454	10,128,507	594,052
(4)貸付金			
①保険約款貸付	16,747	16,747	—
②一般貸付	1,009,990	1,140,752	130,762
貸倒引当金	△7,586	—	—
小計(*1)	1,019,152	1,157,500	138,348
資産計	10,602,249	11,334,944	732,695
(1)債券貸借取引受入担保金	261,144	261,144	—
(2)金融商品等受入担保金	747	747	—
負債計	261,891	261,891	—
デリバティブ取引(*3)			
ヘッジ会計が適用されていないもの(*4)	(1,759)	(1,759)	—
ヘッジ会計が適用されているもの	(21,097)	(21,097)	—
デリバティブ取引計	(22,857)	(22,857)	—

(\*1) 貸倒引当金を計上したのものについては、当該引当金を控除しています。

(\*2) 非上場株式を除きます。

(\*3) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、( )で示しています。

(\*4) 企業会計基準適用指針第12号「その他の複合金融商品(払込資本を増加させる可能性のある部分を含まない複合金融商品)に関する会計処理」に従って区分処理をしている複合金融商品の組込デリバティブの時価を含みます。

## 資産

## ①現金及び預貯金

同左

## ②買入金銭債権

同左

## ③有価証券

有価証券は、市場価格があるものは市場価格に基づき、市場価格のないものは、以下のいずれかの方法により時価を算定しています。

a個別銘柄の信用リスクを反映させるため、参照可能なマーケット情報より、金融市場が想定する当該発行体の倒産確率を算定し、その倒産確率と債務履行順位別の期待回収率より推計した将来キャッシュ・フローを、無リスク金利で割り引くことで現在価値を算定する方法。

なお、コール条項が付されている場合、オプションの価値を考慮しています。

b取引金融機関または情報ベンダーから提供された価格に基づき算定する方法。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、非上場株式(貸借対照表計上額360百万円)です。

保有目的ごとの有価証券の時価等に関する状況は以下の通りです。

## 満期保有目的の債券

(単位:百万円)

	種類	貸借対照表計上額	時価	差額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	(1)公社債	2,510,043	2,874,001	363,957
	(2)外国証券	1,143,779	1,248,172	104,392
	(3)買入金銭債権	1,724	1,815	91
	小計	3,655,547	4,123,989	468,442
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	(1)公社債	—	—	—
	(2)外国証券	392,500	372,580	△19,919
	(3)買入金銭債権	—	—	—
	小計	392,500	372,580	△19,919
合計		4,048,047	4,496,570	448,522

満期保有目的の債券について、当期中の売却はありません。

従来、満期保有目的の債券に区分していた外国証券(額面金額62,000百万円)について、債券発行者の信用状態が著しく悪化したために、その他有価証券に変更しています。この変更に伴い、貸借対照表上の外国証券が1,555百万円減少、繰延税金負債が448百万円減少、その他有価証券評価差額金が1,107百万円減少しています。

平成25年度					平成26年度				
責任準備金対応債券 (単位:百万円)					責任準備金対応債券 (単位:百万円)				
	種類	貸借対照表計上額	時価	差額		種類	貸借対照表計上額	時価	差額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	公社債	1,314,056	1,345,545	31,489	時価が貸借対照表計上額を超えるもの	公社債	1,719,978	1,865,638	145,659
	小計	1,314,056	1,345,545	31,489		小計	1,719,978	1,865,638	145,659
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	公社債	103,401	103,071	△330	時価が貸借対照表計上額を超えないもの	公社債	36,967	36,927	△39
	小計	103,401	103,071	△330		小計	36,967	36,927	△39
合計		1,417,457	1,448,617	31,159	合計		1,756,945	1,902,566	145,620
責任準備金対応債券について、当期中の売却はありません。					責任準備金対応債券について、当期中の売却はありません。				
その他有価証券(時価を把握することが極めて困難と認められるものを除く) (単位:百万円)					その他有価証券で時価のあるもの (単位:百万円)				
	種類	取得原価又は償却原価	貸借対照表計上額	差額		種類	取得原価又は償却原価	貸借対照表計上額	差額
貸借対照表計上額が取得原価又は償却原価を超えるもの	(1)公社債	407,054	428,283	21,228	貸借対照表計上額が取得原価又は償却原価を超えるもの	(1)公社債	338,230	372,436	34,206
	(2)株式	755	1,085	330		(2)株式	1,021	1,605	583
	(3)外国証券	1,018,140	1,189,780	171,639		(3)外国証券	2,252,825	2,645,048	392,223
	(4)買入金銭債権	17,765	19,327	1,561		(4)買入金銭債権	17,405	19,713	2,308
	小計	1,443,717	1,638,476	194,759		小計	2,609,482	3,038,804	429,321
貸借対照表計上額が取得原価又は償却原価を超えないもの	(1)公社債	1,501	1,492	△9	貸借対照表計上額が取得原価又は償却原価を超えないもの	(1)公社債	398	397	△1
	(2)株式	346	316	△29		(2)株式	76	68	△8
	(3)外国証券	1,607,036	1,502,997	△104,038		(3)外国証券	761,696	711,630	△50,066
	(4)買入金銭債権	—	—	—		(4)買入金銭債権	—	—	—
	小計	1,608,884	1,504,806	△104,077		小計	762,172	712,096	△50,075
合計		3,052,601	3,143,283	90,681	合計		3,371,655	3,750,900	379,245
その他有価証券の当期中の売却額は807,767百万円、売却益の合計額は12,776百万円、売却損の合計額は9,402百万円です。					その他有価証券の当期中の売却額は311,709百万円、売却益の合計額は7,820百万円、売却損の合計額は2,669百万円です。				
また、有価証券の減損処理を実施し、8,130百万円の有価証券評価損を計上しています。					また、有価証券の減損処理を実施し、1,085百万円の有価証券評価損を計上しています。				
④貸付金					④貸付金				
a 保険約款貸付					a 保険約款貸付				
保険約款貸付は、当該貸付を解約返戻金の範囲内に限るなどの特性により返済期限を設けておらず、返済見込み期間および金利条件等から、時価は帳簿価額と近似しているものと想定されるため、帳簿価額を時価としています。					同 左				
b 一般貸付					b 一般貸付				
企業向け貸付金の時価の算定は、与信管理上の貸付先の信用リスクに応じ、以下のいずれかの方法により算定しています。					同 左				
<ul style="list-style-type: none"> <li>債務者ごとの信用リスクを反映させるため、参照可能なマーケット情報より、金融市場が想定する当該債務者の倒産確率を算定し、その倒産確率と債務履行順位別の期待回収率より推計した将来キャッシュフローを、無リスク金利で割り引くことで現在価値を算定する方法。</li> </ul>									
なお、繰上弁済条項が付されている場合、オプションの価値を考慮しています。									
<ul style="list-style-type: none"> <li>取引金融機関または情報ベンダーから提供された価格に基づき算定する方法。</li> </ul>									
従業員および代理店向けの貸付金は、金利条件等から時価は帳簿価額と近似しているものと想定されるため、帳簿価額を時価としています。									
<b>負債</b>					<b>負債</b>				
債券貸借取引受入担保金					債券貸借取引受入担保金および金融商品等受入担保金				
取引はすべて短期であり、時価は帳簿価額と近似しているものと想定されるため、帳簿価額を時価としています。					同 左				
<b>デリバティブ取引</b>					<b>デリバティブ取引</b>				
①為替予約					①為替予約				
為替予約の時価は、市場価格に準ずるものとして取引金融機関から提示された価格によっています。					為替予約の時価は、市場価格に準ずるものとして、自社において合理的に算定された価額によっています。				
②金利スワップ					②通貨オプション				
金利スワップの時価は、市場価格に準ずるものとして取引金融機関から提示された価格によっています。					通貨オプションの時価は、市場価格に準ずるものとして、自社において合理的に算定された価額によっています。				
③組込デリバティブ					③金利スワップ				
複合金融商品に組み込まれたデリバティブは、市場価格に準ずるものとして情報ベンダーから提供された価格によっています。					金利スワップの時価は、市場価格に準ずるものとして、自社において合理的に算定された価額によっています。				
					④組込デリバティブ				
					同 左				

平成25年度					
主な金銭債権、満期がある有価証券および債券貸借取引受入担保金の決算日後の返済・償還予定額は以下の通りです。					
主な金銭債権および満期がある有価証券の決算日後の返済・償還予定額 (単位:百万円)					
	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超(期間の定めのないものを含む)	
(1)現金及び預貯金	23,066	—	—	—	—
(2)買入金銭債権					
①満期保有目的の債券	—	—	—	2,107	
②その他有価証券	—	—	—	19,327	
③その他	760	6,594	—	—	
小計	760	6,594	—	21,434	
(3)有価証券					
①満期保有目的の債券	50,294	230,589	176,406	3,725,443	
②責任準備金対応債券	—	—	37,757	1,379,700	
③その他有価証券	66,803	179,582	1,048,323	1,827,844	
小計	117,097	410,171	1,262,487	6,932,989	
(4)貸付金					
①一般貸付	1	20,556	84,124	977,411	
資産計	140,925	437,323	1,346,612	7,931,835	
債券貸借取引受入担保金の決算日後の返済予定額 (単位:百万円)					
	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超(期間の定めのないものを含む)	
債券貸借取引受入担保金	292,795	—	—	—	
負債計	292,795	—	—	—	
2. 資産除去債務の状況に関しては以下の通りです。					
(1) 当該資産除去債務の概要 事務所等借室の賃貸借契約における退去時の原状回復義務に係る費用を計上しています。					
(2) 当該資産除去債務の金額の算定方法 使用見込期間を取得から10年(一部の事務所は15年)と見積り、資産除去債務を計算しています。					
(3) 資産除去債務の総額の増減					
当期首現在高			1,589百万円		
有形固定資産の取得に伴う増加額			106百万円		
その他増減額(△は減少)			△34百万円		
当期末現在高			1,661百万円		
3. 貸付金のうち、破綻先債権、延滞債権、3ヵ月以上延滞債権および貸付条件緩和債権の合計額は、30,009百万円です。なお、それぞれの内訳は以下の通りです。 貸付金のうち、破綻先債権、3ヵ月以上延滞債権、および貸付条件緩和債権はありません。延滞債権額は30,009百万円です。 破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸付金(貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸付金」という。)のうち、法人税法施行令(昭和40年政令第97号)第96条第1項第3号のイからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸付金です。 延滞債権とは、未収利息不計上貸付金であって、破綻先債権および債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸付金以外の貸付金です。 3ヵ月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が、約定支払日の翌日を起算日として3ヵ月以上延滞している貸付金で破綻先債権および延滞債権に該当しないものです。 貸付条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他債務者に有利となる取決めを行ったもので、破綻先債権、延滞債権および3ヵ月以上延滞債権に該当しない貸付金です。					
4. 消費貸借契約により貸し付けている有価証券の貸借対照表計上額は、282,057百万円です。					
5. 有形固定資産の減価償却累計額は、24,720百万円です。					
6. 繰延税金資産の総額は、114,810百万円、繰延税金負債の総額は、30,361百万円です。繰延税金資産のうち評価性引当金として控除した額は、526百万円です。 繰延税金資産の発生の主原因別内訳は、保険契約準備金53,860百万円、有価証券18,145百万円、減価償却超過16,245百万円、価格変動準備金11,915百万円、貸倒引当金5,314百万円、退職給付引当金2,935百万円です。 繰延税金負債の発生の主原因別内訳は、その他有価証券評価差額27,930百万円、金融派生商品1,039百万円です。					
7. 「所得税法等の一部を改正する法律」(平成26年法律第10号)が平成26年3月31日に公布されたことに伴い、繰延税金資産および繰延税金負債の計算に適用される法定実効税率33.3%は、回収又は支払が見込まれる期間が平成27年1月1日から平成27年12月31日までのものについては、30.8%に変更になりました。この変更により、当期末における繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)は744百万円の減少、法人税等調整額は757百万円およびその他有価証券評価差額金が13百万円それぞれ増加しています。					

平成26年度					
主な金銭債権、満期がある有価証券および債券貸借取引受入担保金、金融商品等受入担保金の決算日後の返済・償還予定額は以下の通りです。					
主な金銭債権および満期がある有価証券の決算日後の返済・償還予定額 (単位:百万円)					
	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超(期間の定めのないものを含む)	
(1)現金及び預貯金	20,582	—	—	—	—
(2)買入金銭債権					
①満期保有目的の債券	—	—	—	1,724	
②その他有価証券	—	—	—	19,713	
③その他	—	6,622	—	—	
小計	—	6,622	—	21,437	
(3)有価証券					
①満期保有目的の債券	65,114	188,566	221,180	3,571,462	
②責任準備金対応債券	—	—	56,702	1,700,243	
③その他有価証券	46,414	252,083	1,231,150	2,199,862	
小計	111,529	440,650	1,509,033	7,471,568	
(4)貸付金					
①一般貸付	33,500	55,067	34,110	887,312	
資産計	165,611	502,339	1,543,144	8,380,318	
債券貸借取引受入担保金および金融商品等受入担保金の決算日後の返済予定額 (単位:百万円)					
	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超(期間の定めのないものを含む)	
(1)債券貸借取引受入担保金	261,144	—	—	—	
(2)金融商品等受入担保金	747	—	—	—	
負債計	261,891	—	—	—	
2. 資産除去債務の状況に関しては以下の通りです。					
(1) 当該資産除去債務の概要 同左					
(2) 当該資産除去債務の金額の算定方法 同左					
(3) 資産除去債務の総額の増減					
当期首現在高			1,661百万円		
有形固定資産の取得に伴う増加額			10百万円		
その他増減額(△は減少)			—		
当期末現在高			1,671百万円		
3. 貸付金のうち、破綻先債権、延滞債権、3ヵ月以上延滞債権および貸付条件緩和債権の合計額は、30,004百万円です。なお、それぞれの内訳は以下の通りです。 貸付金のうち、破綻先債権、3ヵ月以上延滞債権、および貸付条件緩和債権はありません。延滞債権額は30,004百万円です。 破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸付金(貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸付金」という。)のうち、法人税法施行令(昭和40年政令第97号)第96条第1項第3号のイからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸付金です。 延滞債権とは、未収利息不計上貸付金であって、破綻先債権および債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸付金以外の貸付金です。 3ヵ月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が、約定支払日の翌日を起算日として3ヵ月以上延滞している貸付金で破綻先債権および延滞債権に該当しないものです。 貸付条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他債務者に有利となる取決めを行ったもので、破綻先債権、延滞債権および3ヵ月以上延滞債権に該当しない貸付金です。					
4. 消費貸借契約により貸し付けている有価証券の貸借対照表計上額は、240,800百万円です。					
5. 有形固定資産の減価償却累計額は、25,392百万円です。					
6. 繰延税金資産の総額は、109,978百万円、繰延税金負債の総額は、111,394百万円です。繰延税金資産のうち評価性引当金として控除した額は、514百万円です。 繰延税金資産の発生の主原因別内訳は、保険契約準備金52,394百万円、有価証券17,078百万円、減価償却超過16,882百万円、価格変動準備金12,214百万円、退職給付引当金2,693百万円、貸倒引当金2,409百万円です。 繰延税金負債の発生の主原因別内訳は、その他有価証券評価差額109,240百万円、金融派生商品1,044百万円です。 当期における法定実効税率は32.2%であり、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率34.1%との差異の主要な内訳は、税率変更による期末繰延税金資産の減額修正1.8%です。					
7. 「所得税法等の一部を改正する法律」(平成27年法律第9号)が平成27年3月31日に公布されたことに伴い、繰延税金資産および繰延税金負債の計算に適用される法定実効税率30.8%は、回収又は支払が見込まれる期間が平成28年1月1日以降のものについては、28.8%に変更になりました。この変更により、当期末における繰延税金負債の金額(繰延税金資産の金額を控除した金額)は2,064百万円の減少、法人税等調整額は5,502百万円およびその他有価証券評価差額金が7,567百万円それぞれ増加しています。					

平成25年度	平成26年度																																																																				
<p>8. 契約者配当準備金の異動状況は以下の通りです。</p> <table border="0"> <tr><td>当期首現在高</td><td style="text-align: right;">373百万円</td></tr> <tr><td>当期契約者配当金支払額</td><td style="text-align: right;">37百万円</td></tr> <tr><td>利息による増加等</td><td style="text-align: right;">0百万円</td></tr> <tr><td>契約者配当準備金繰入額</td><td style="text-align: right;">△0百万円</td></tr> <tr><td>当期末現在高</td><td style="text-align: right;"><u>335百万円</u></td></tr> </table>	当期首現在高	373百万円	当期契約者配当金支払額	37百万円	利息による増加等	0百万円	契約者配当準備金繰入額	△0百万円	当期末現在高	<u>335百万円</u>	<p>8. 契約者配当準備金の異動状況は以下の通りです。</p> <table border="0"> <tr><td>当期首現在高</td><td style="text-align: right;">335百万円</td></tr> <tr><td>当期契約者配当金支払額</td><td style="text-align: right;">36百万円</td></tr> <tr><td>利息による増加等</td><td style="text-align: right;">0百万円</td></tr> <tr><td>契約者配当準備金繰入額</td><td style="text-align: right;">△0百万円</td></tr> <tr><td>当期末現在高</td><td style="text-align: right;"><u>299百万円</u></td></tr> </table>	当期首現在高	335百万円	当期契約者配当金支払額	36百万円	利息による増加等	0百万円	契約者配当準備金繰入額	△0百万円	当期末現在高	<u>299百万円</u>																																																
当期首現在高	373百万円																																																																				
当期契約者配当金支払額	37百万円																																																																				
利息による増加等	0百万円																																																																				
契約者配当準備金繰入額	△0百万円																																																																				
当期末現在高	<u>335百万円</u>																																																																				
当期首現在高	335百万円																																																																				
当期契約者配当金支払額	36百万円																																																																				
利息による増加等	0百万円																																																																				
契約者配当準備金繰入額	△0百万円																																																																				
当期末現在高	<u>299百万円</u>																																																																				
9. 保険業法第190条に基づき、国債213百万円(額面200百万円)を供託しています。	9. 保険業法第190条に基づき、国債206百万円(額面200百万円)を供託しています。																																																																				
10. 保険業法施行規則第71条第1項に規定する再保険を付した部分に相当する責任準備金(以下「出再責任準備金」という。)の金額は107,815百万円です。なお、当期において共同保険式再保険を締結したことにより、責任準備金を106,569百万円戻し入れています。	10. 保険業法施行規則第71条第1項に規定する再保険を付した部分に相当する責任準備金(以下「出再責任準備金」という。)の金額は298,702百万円です。なお、当期において共同保険式再保険契約により、責任準備金を185,333百万円戻し入れています。																																																																				
11. 責任準備金は、修正共同保険式再保険に基づく再保険会社からの預り責任準備金40,740百万円を含んでいます。																																																																					
12. 持込資本金は、日本において事業を行うために、米国本店より日本に持ち込まれた事業開設資金を計上しています。	12. 同 左																																																																				
13. 外貨建資産の額は、2,090,994百万円です。(外貨額20,316百万米ドル) 外貨建負債の額は、9,750百万円です。(外貨額94百万米ドル)																																																																					
14. 保険業法第259条の規定に基づく生命保険契約者保護機構に対する当期末における当社の今後の負担見積額は、26,072百万円です。 なお、当該負担金は提出した年度の事業費として処理しています。	13. 保険業法第259条の規定に基づく生命保険契約者保護機構に対する当期末における当社の今後の負担見積額は、29,045百万円です。 なお、当該負担金は提出した年度の事業費として処理しています。																																																																				
15. 退職給付に関する事項は以下の通りです。 (1) 採用している退職給付制度の概要 当社は、確定給付型の制度として、確定給付企業年金制度および退職一時金制度を設けています。 (2) 確定給付制度	14. 退職給付に関する事項は以下の通りです。 (1) 採用している退職給付制度の概要 同 左 (2) 確定給付制度																																																																				
<p>①退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表</p> <table border="0"> <tr><td>期首における退職給付債務</td><td style="text-align: right;">23,034百万円</td></tr> <tr><td>勤務費用</td><td style="text-align: right;">1,547百万円</td></tr> <tr><td>利息費用</td><td style="text-align: right;">460百万円</td></tr> <tr><td>数理計算上の差異の当期発生額</td><td style="text-align: right;">△347百万円</td></tr> <tr><td>退職給付の支払額</td><td style="text-align: right;">△509百万円</td></tr> <tr><td>過去勤務費用の当期発生額</td><td style="text-align: right;">—</td></tr> <tr><td>期末における退職給付債務</td><td style="text-align: right;">24,186百万円</td></tr> </table> <p>②年金資産の期首残高と期末残高の調整表</p> <table border="0"> <tr><td>期首における年金資産</td><td style="text-align: right;">16,978百万円</td></tr> <tr><td>期待運用収益</td><td style="text-align: right;">339百万円</td></tr> <tr><td>数理計算上の差異の当期発生額</td><td style="text-align: right;">363百万円</td></tr> <tr><td>事業主からの拠出額</td><td style="text-align: right;">2,225百万円</td></tr> <tr><td>退職給付の支払額</td><td style="text-align: right;">△509百万円</td></tr> <tr><td>期末における年金資産</td><td style="text-align: right;">19,398百万円</td></tr> </table> <p>③退職給付債務および年金資産と貸借対照表に計上された退職給付引当金および前払年金費用の調整表</p> <table border="0"> <tr><td>積立型制度の退職給付債務</td><td style="text-align: right;">24,186百万円</td></tr> <tr><td>年金資産</td><td style="text-align: right;">△19,398百万円</td></tr> <tr><td>未認識債務残高</td><td style="text-align: right;">△393百万円</td></tr> <tr><td>退職給付引当金</td><td style="text-align: right;">4,393百万円</td></tr> </table>	期首における退職給付債務	23,034百万円	勤務費用	1,547百万円	利息費用	460百万円	数理計算上の差異の当期発生額	△347百万円	退職給付の支払額	△509百万円	過去勤務費用の当期発生額	—	期末における退職給付債務	24,186百万円	期首における年金資産	16,978百万円	期待運用収益	339百万円	数理計算上の差異の当期発生額	363百万円	事業主からの拠出額	2,225百万円	退職給付の支払額	△509百万円	期末における年金資産	19,398百万円	積立型制度の退職給付債務	24,186百万円	年金資産	△19,398百万円	未認識債務残高	△393百万円	退職給付引当金	4,393百万円	<p>①退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表</p> <table border="0"> <tr><td>期首における退職給付債務</td><td style="text-align: right;">24,186百万円</td></tr> <tr><td>勤務費用</td><td style="text-align: right;">1,574百万円</td></tr> <tr><td>利息費用</td><td style="text-align: right;">483百万円</td></tr> <tr><td>数理計算上の差異の当期発生額</td><td style="text-align: right;">3,814百万円</td></tr> <tr><td>退職給付の支払額</td><td style="text-align: right;">△777百万円</td></tr> <tr><td>過去勤務費用の当期発生額</td><td style="text-align: right;">—</td></tr> <tr><td>期末における退職給付債務</td><td style="text-align: right;">29,282百万円</td></tr> </table> <p>②年金資産の期首残高と期末残高の調整表</p> <table border="0"> <tr><td>期首における年金資産</td><td style="text-align: right;">19,398百万円</td></tr> <tr><td>期待運用収益</td><td style="text-align: right;">387百万円</td></tr> <tr><td>数理計算上の差異の当期発生額</td><td style="text-align: right;">917百万円</td></tr> <tr><td>事業主からの拠出額</td><td style="text-align: right;">2,282百万円</td></tr> <tr><td>退職給付の支払額</td><td style="text-align: right;">△777百万円</td></tr> <tr><td>期末における年金資産</td><td style="text-align: right;">22,209百万円</td></tr> </table> <p>③退職給付債務および年金資産と貸借対照表に計上された退職給付引当金および前払年金費用の調整表</p> <table border="0"> <tr><td>積立型制度の退職給付債務</td><td style="text-align: right;">29,282百万円</td></tr> <tr><td>年金資産</td><td style="text-align: right;">△22,209百万円</td></tr> <tr><td>未認識債務残高</td><td style="text-align: right;">△3,223百万円</td></tr> <tr><td>退職給付引当金</td><td style="text-align: right;">3,849百万円</td></tr> </table>	期首における退職給付債務	24,186百万円	勤務費用	1,574百万円	利息費用	483百万円	数理計算上の差異の当期発生額	3,814百万円	退職給付の支払額	△777百万円	過去勤務費用の当期発生額	—	期末における退職給付債務	29,282百万円	期首における年金資産	19,398百万円	期待運用収益	387百万円	数理計算上の差異の当期発生額	917百万円	事業主からの拠出額	2,282百万円	退職給付の支払額	△777百万円	期末における年金資産	22,209百万円	積立型制度の退職給付債務	29,282百万円	年金資産	△22,209百万円	未認識債務残高	△3,223百万円	退職給付引当金	3,849百万円
期首における退職給付債務	23,034百万円																																																																				
勤務費用	1,547百万円																																																																				
利息費用	460百万円																																																																				
数理計算上の差異の当期発生額	△347百万円																																																																				
退職給付の支払額	△509百万円																																																																				
過去勤務費用の当期発生額	—																																																																				
期末における退職給付債務	24,186百万円																																																																				
期首における年金資産	16,978百万円																																																																				
期待運用収益	339百万円																																																																				
数理計算上の差異の当期発生額	363百万円																																																																				
事業主からの拠出額	2,225百万円																																																																				
退職給付の支払額	△509百万円																																																																				
期末における年金資産	19,398百万円																																																																				
積立型制度の退職給付債務	24,186百万円																																																																				
年金資産	△19,398百万円																																																																				
未認識債務残高	△393百万円																																																																				
退職給付引当金	4,393百万円																																																																				
期首における退職給付債務	24,186百万円																																																																				
勤務費用	1,574百万円																																																																				
利息費用	483百万円																																																																				
数理計算上の差異の当期発生額	3,814百万円																																																																				
退職給付の支払額	△777百万円																																																																				
過去勤務費用の当期発生額	—																																																																				
期末における退職給付債務	29,282百万円																																																																				
期首における年金資産	19,398百万円																																																																				
期待運用収益	387百万円																																																																				
数理計算上の差異の当期発生額	917百万円																																																																				
事業主からの拠出額	2,282百万円																																																																				
退職給付の支払額	△777百万円																																																																				
期末における年金資産	22,209百万円																																																																				
積立型制度の退職給付債務	29,282百万円																																																																				
年金資産	△22,209百万円																																																																				
未認識債務残高	△3,223百万円																																																																				
退職給付引当金	3,849百万円																																																																				
<p>なお、執行役員等に対する役員退職慰労引当金の当期末の残高は、5,133百万円です。</p> <p>④退職給付に関連する損益</p> <table border="0"> <tr><td>勤務費用</td><td style="text-align: right;">1,547百万円</td></tr> <tr><td>利息費用</td><td style="text-align: right;">460百万円</td></tr> <tr><td>期待運用収益</td><td style="text-align: right;">△339百万円</td></tr> <tr><td>数理計算上の差異の当期の費用処理額</td><td style="text-align: right;">510百万円</td></tr> <tr><td>過去勤務費用の当期の費用処理額</td><td style="text-align: right;">△60百万円</td></tr> <tr><td>確定給付制度に係る退職給付費用</td><td style="text-align: right;">2,118百万円</td></tr> </table> <p>⑤年金資産の主な内訳</p> <table border="0"> <tr><td>債券</td><td style="text-align: right;">58%</td></tr> <tr><td>株式</td><td style="text-align: right;">17%</td></tr> <tr><td>現金及び預金</td><td style="text-align: right;">11%</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">14%</td></tr> <tr><td>合計</td><td style="text-align: right;">100%</td></tr> </table> <p>⑥長期期待運用収益の設定方法 年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在および予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在および将来期待される長期の収益率を考慮しています。</p> <p>⑦数理計算上の計算基礎に関する事項 期末における主要な数理計算上の計算基礎は以下の通りです。</p> <table border="0"> <tr><td>割引率</td><td style="text-align: right;">2.00%</td></tr> <tr><td>長期期待運用収益率</td><td style="text-align: right;">2.00%</td></tr> </table>	勤務費用	1,547百万円	利息費用	460百万円	期待運用収益	△339百万円	数理計算上の差異の当期の費用処理額	510百万円	過去勤務費用の当期の費用処理額	△60百万円	確定給付制度に係る退職給付費用	2,118百万円	債券	58%	株式	17%	現金及び預金	11%	その他	14%	合計	100%	割引率	2.00%	長期期待運用収益率	2.00%	<p>なお、執行役員等に対する役員退職慰労引当金の当期末の残高は、5,501百万円です。</p> <p>④退職給付に関連する損益</p> <table border="0"> <tr><td>勤務費用</td><td style="text-align: right;">1,574百万円</td></tr> <tr><td>利息費用</td><td style="text-align: right;">483百万円</td></tr> <tr><td>期待運用収益</td><td style="text-align: right;">△387百万円</td></tr> <tr><td>数理計算上の差異の当期の費用処理額</td><td style="text-align: right;">128百万円</td></tr> <tr><td>過去勤務費用の当期の費用処理額</td><td style="text-align: right;">△60百万円</td></tr> <tr><td>確定給付制度に係る退職給付費用</td><td style="text-align: right;">1,738百万円</td></tr> </table> <p>⑤年金資産の主な内訳</p> <table border="0"> <tr><td>債券</td><td style="text-align: right;">58%</td></tr> <tr><td>株式</td><td style="text-align: right;">30%</td></tr> <tr><td>現金及び預金</td><td style="text-align: right;">0%</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">12%</td></tr> <tr><td>合計</td><td style="text-align: right;">100%</td></tr> </table> <p>⑥長期期待運用収益の設定方法 同 左</p> <p>⑦数理計算上の計算基礎に関する事項 期末における主要な数理計算上の計算基礎は以下の通りです。</p> <table border="0"> <tr><td>割引率</td><td style="text-align: right;">1.25%</td></tr> <tr><td>長期期待運用収益率</td><td style="text-align: right;">2.00%</td></tr> </table>	勤務費用	1,574百万円	利息費用	483百万円	期待運用収益	△387百万円	数理計算上の差異の当期の費用処理額	128百万円	過去勤務費用の当期の費用処理額	△60百万円	確定給付制度に係る退職給付費用	1,738百万円	債券	58%	株式	30%	現金及び預金	0%	その他	12%	合計	100%	割引率	1.25%	長期期待運用収益率	2.00%																
勤務費用	1,547百万円																																																																				
利息費用	460百万円																																																																				
期待運用収益	△339百万円																																																																				
数理計算上の差異の当期の費用処理額	510百万円																																																																				
過去勤務費用の当期の費用処理額	△60百万円																																																																				
確定給付制度に係る退職給付費用	2,118百万円																																																																				
債券	58%																																																																				
株式	17%																																																																				
現金及び預金	11%																																																																				
その他	14%																																																																				
合計	100%																																																																				
割引率	2.00%																																																																				
長期期待運用収益率	2.00%																																																																				
勤務費用	1,574百万円																																																																				
利息費用	483百万円																																																																				
期待運用収益	△387百万円																																																																				
数理計算上の差異の当期の費用処理額	128百万円																																																																				
過去勤務費用の当期の費用処理額	△60百万円																																																																				
確定給付制度に係る退職給付費用	1,738百万円																																																																				
債券	58%																																																																				
株式	30%																																																																				
現金及び預金	0%																																																																				
その他	12%																																																																				
合計	100%																																																																				
割引率	1.25%																																																																				
長期期待運用収益率	2.00%																																																																				

● 損益計算書関係

平成25年度	平成26年度
<p>1. 有価証券売却益の内訳は、国債等債券6,175百万円、株式等 16百万円、外国証券6,584百万円です。 有価証券売却損の内訳は、国債等債券2,313百万円、外国証券7,088百万円です。 有価証券評価損の内訳は、株式等7百万円、外国証券8,122百万円です。</p> <p>2. 責任準備金繰入額の計算上、差し引かれた出再責任準備金繰入額は、106,664百万円です。</p> <p>3. 金融派生商品費用には、評価損が2,979百万円含まれています。</p> <p>4. 再保険収入は、修正共同保険式再保険に係る出再保険事業費受入3,812百万円を含んでいます。 再保険料からは、修正共同保険式再保険に係る出再保険責任準備金調整額11,300百万円を差し引いています。</p> <p>5. 事業費に含まれている本社配賦経費、関係会社への経営管理報酬の合計額は11,293百万円です。</p>	<p>1. 有価証券売却益の内訳は、国債等債券136百万円、外国証券7,684百万円です。 有価証券売却損の内訳は、国債等債券0百万円、外国証券2,668百万円です。 有価証券評価損の内訳は、株式等3百万円、外国証券1,082百万円です。</p> <p>2. 責任準備金繰入額の計算上、差し引かれた出再責任準備金繰入額は、190,886百万円です。</p> <p>3. 金融派生商品費用には、評価損が5,684百万円含まれています。</p> <p>4. 事業費に含まれている本社配賦経費、関係会社への経営管理報酬の合計額は12,663百万円です。</p>

## 4. 内部統制報告書

### 内部統制報告書

平成 27 年 6 月 10 日  
アメリカン ファミリー ライフ アシュアランス カンパニー オブ コロンバス

日本における代表者・社長

山内裕司

常務執行役員(経理・数理部門担当)

山崎和弘

#### 1. 財務報告に係る内部統制の基本的枠組みに関する事項

日本における代表者・社長 山内裕司及び常務執行役員(経理・数理部門担当) 山崎和弘は、アメリカンファミリー ライフ アシュアランス カンパニー オブ コロンバス 日本支社(以下、「当社」と記載する)の財務報告に係る内部統制の整備及び運用に責任を有しており、当社は企業会計審議会の公表した「財務報告に係る内部統制の評価及び監査の基準並びに財務報告に係る内部統制の評価及び監査に関する実施基準の改訂について(意見書)」(平成 23 年 3 月 30 日)に示されている内部統制の基本的枠組みに準拠して財務報告に係る内部統制を整備及び運用しています。

なお、内部統制は、内部統制の各基本的要素が有機的に結びつき、一体となって機能することで、その目的を合理的な範囲で達成しようとするものです。このため、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性があります。

#### 2. 評価の範囲、基準日及び評価手続に関する事項

財務報告に係る内部統制の評価は、当事業年度の末日である平成 27 年 3 月 31 日を基準日として行われており、評価に当たっては、一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠しています。

本評価においては、財務報告全体に重要な影響を及ぼす内部統制(全社的な内部統制)の評価を行った上で、その結果を踏まえて、評価対象とする業務プロセスを選定しています。当該業務プロセスの評価においては、選定された業務プロセスを分析した上で、財務報告の信頼性に重要な影響を及ぼす統制上の要点を識別し、当該統制上の要点について整備及び運用状況を評価することによって、内部統制の有効性に関する評価を行いました。財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性は、金額的及び質的影響の重要性を考慮して決定しており、全社的な内部統制の評価結果を踏まえ、業務プロセスに係る内部統制の評価範囲を合理的に決定しています。

業務プロセスに係る内部統制の評価範囲については、当社全体を「重要な事業拠点」としたうえで、企業の事業目的に大きく関わる勘定科目として有価証券、一般貸付金、保険契約準備金、保険料等収入及び保険金等支払金に至る業務プロセスを評価の対象としています。さらに、重要な虚偽記載の発生する可能性が高く、見積りや予測を伴う重要な勘定科目に係る業務プロセスやリスクが大きい取引を行っている業務に係る業務プロセスを財務報告への影響を勘案して重要性の大きい業務プロセスとして評価対象に追加しています。

なお、当社における内部統制評価の対象とした「財務報告」は、保険業法第 199 条及び同法第 110 条第 1 項の規定に基づいて作成した貸借対照表、損益計算書、及びキャッシュ・フロー計算書を範囲としています。

#### 3. 評価結果に関する事項

上記の評価の結果、当事業年度末日時点において、当社の財務報告に係る内部統制は有効であると判断しました。

#### 4. 付記事項

該当事項はありません。

#### 5. 特記事項

この内部統制報告書は、当社が任意で作成したものです。

## 5. 独立監査人の監査報告

当社は、保険業法第199条及び第110条第1項の規定に基づき作成した平成26年度の貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書、重要な会計方針及びその他の注記ならびにその附属明細書についての財務諸表監査及び、保険業法第199条及び第110条第1項の規定に基づき作成した平成26年度の貸借対照表、損益計算書及びキャッシュ・フロー計算書に係る平成27年3月31日現在の任意の内部統制報告書についての内部統制監査を、有限責任 あずさ監査法人に委嘱しており、いずれも無限定適正意見の表明を受けています。

なお本誌では、有限責任 あずさ監査法人による監査の対象及び経営者による内部統制報告書の対象となった貸借対照表、損益計算書及びキャッシュ・フロー計算書について、当社の判断に基づき、記載内容を一部追加するとともに様式を一部変更して、P.86～96に掲載しています。

## 6. 株主資本等変動計算書

該当ありません。

## 7. 債務者区分による債権の状況

(単位:百万円、%)

区 分	平成25年度末	平成26年度末
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	9	4
危険債権	30,123	30,144
要管理債権	—	—
小 計 (対合計比)	30,133 (2.2)	30,149 (2.4)
正常債権	1,355,277	1,241,902
合 計	1,385,410	1,272,051

- (注) 1. 破産更生債権及びこれらに準ずる債権とは、破産手続開始、更生手続開始または再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権です。
2. 危険債権とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権です。
3. 要管理債権とは、3ヵ月以上延滞貸付金及び条件緩和貸付金です。なお、3ヵ月以上延滞貸付金とは、元本または利息の支払が、約定支払日の翌日から3ヵ月以上遅延している貸付金(注1及び2に掲げる債権を除く)、条件緩和貸付金とは、債務者の経営再建または支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸付金(注1及び2に掲げる債権並びに3ヵ月以上延滞貸付金を除く)です。
4. 正常債権とは、債務者の財政状態及び経営成績に特に問題がないものとして、注1から3までに掲げる債権以外のものに区分される債権です。

## 8. リスク管理債権の状況

(単位:百万円、%)

区 分	平成25年度末	平成26年度末
破綻先債権額	—	—
延滞債権額	30,009	30,004
3ヵ月以上延滞債権額	—	—
貸付条件緩和債権額	—	—
合 計 (貸付残高に対する比率)	30,009 (2.7)	30,004 (2.9)

- (注) 1. 破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸付金(未収利息不計上貸付金)のうち、会社更生法、民事再生法、破産法、会社法等による手続き申立てにより法的倒産となった債務者、又は手形交換所の取引停止処分を受けた債務者、あるいは、海外の法律により上記に準ずる法律上の手続き申立てがあった債務者に対する貸付金です。
2. 延滞債権とは、未収利息不計上貸付金であって、上記破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予したものの以外の貸付金です。
3. 3ヵ月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3ヵ月以上遅延しているもので、破綻先債権、延滞債権に該当しない貸付金です。
4. 貸付条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行ったもので、破綻先債権、延滞債権及び3ヵ月以上延滞債権に該当しない貸付金です。

## 9. 元本補填契約のある信託に係る貸出金の状況

該当ありません。



## 10. 保険金等の支払能力の充実の状況(ソルベンシー・マージン比率)

(単位:百万円)

項目		平成25年度末	平成26年度末
ソルベンシー・マージン総額 (A)		1,125,160	1,445,518
供託金等		200	200
価格変動準備金		38,687	42,410
危険準備金		79,740	84,159
一般貸倒引当金		9,665	4,112
その他有価証券の評価差額×90%(マイナスの場合100%)		81,613	341,320
土地の含み損益×85%(マイナスの場合100%)		△9,484	△9,435
全期チルメル式責任準備金相当額超過額		461,431	470,179
負債性資本調達手段等		—	—
全期チルメル式責任準備金相当額超過額及び 負債性資本調達手段等のうち、マージンに算入されない額		△13,069	—
持込資本金等		329,735	365,028
控除項目		—	—
その他		146,641	147,543
リスクの合計額 $\sqrt{(R_1+R_6)^2+(R_2+R_3+R_7)^2+R_4}$ (B)		290,277	321,932
保険リスク相当額 $R_1$		11,439	12,663
第三分野保険の保険リスク相当額 $R_6$		33,604	34,276
予定利率リスク相当額 $R_2$		113,035	111,803
最低保証リスク相当額 $R_7$		—	—
資産運用リスク相当額 $R_3$		167,139	199,445
経営管理リスク相当額 $R_4$		6,504	7,163
ソルベンシー・マージン比率 $\frac{(A)}{(1/2) \times (B)} \times 100$		775.2%	898.0%

(注) 保険業法施行規則第161条、第162条及び平成8年大蔵省告示第50号の規定に基づいて算出しています。

## 11. 実質純資産額

(単位:百万円)

	平成25年度末	平成26年度末
資産 (1) 資産の部に計上されるべき金額の合計額 (=①+②+③+④-⑤)	10,293,637	11,327,541
①貸借対照表の資産の部合計	10,078,949	10,742,835
②有価証券の時価と貸借対照表計上額との差額	224,171	594,142
③有形固定資産含み損益	△9,484	△9,435
④上記以外の資産の含み損益	—	—
⑤その他有価証券に係る繰延税金資産	—	—
負債 (2) 負債の部に計上されるべき金額の合計額を基礎として計算した金額 (=⑥-⑦-⑧-⑨-⑩)	8,947,090	9,222,612
⑥貸借対照表の負債の部合計	9,554,878	9,928,601
⑦価格変動準備金	38,687	42,410
⑧危険準備金	79,740	84,159
⑨将来の保険金等の支払いに備えて積み立てている準備金の一部	461,431	470,179
⑩その他有価証券に係る繰延税金負債	27,930	109,240
(3) 実質純資産額(=(1)-(2))	1,346,546	2,104,929

(注) 1. 「保険業法第132条第2項に規定する区分等を定める命令」第3条及び「平成11年金融監督庁・大蔵省告示第2号」の規定に基づき算出しています。  
2. 土地の時価は、相続税の評価方法に準じて算定しています。

## 12. 有価証券等の時価情報(会社計)

### (1) 有価証券の時価情報

#### ● 売買目的有価証券の評価損益

該当ありません。

#### ● 有価証券の時価情報(売買目的有価証券以外の有価証券のうち時価のあるもの)

平成25年度末

(単位:百万円)

区 分	帳簿価額	時価	差損益	差益		差損	
				差益	差損		
満期保有目的の債券	4,184,841	4,377,854	193,012	251,354	△58,341		
責任準備金対応債券	1,417,458	1,448,617	31,159	31,489	△330		
子会社・関連会社株式	—	—	—	—	—		
その他有価証券	3,052,601	3,143,283	90,681	194,759	△104,077		
公社債	408,556	429,775	21,219	21,228	△9		
株式	1,101	1,402	300	330	△29		
外国証券	2,625,177	2,692,778	67,601	171,639	△104,038		
公社債	2,581,941	2,639,114	57,172	161,129	△103,957		
株式等	43,235	53,663	10,428	10,509	△81		
その他の証券	—	—	—	—	—		
買入金銭債権	17,765	19,327	1,561	1,561	—		
譲渡性預金	—	—	—	—	—		
その他	—	—	—	—	—		
合 計	8,654,901	8,969,754	314,853	477,602	△162,749		
公社債	4,338,302	4,573,832	235,530	235,869	△339		
株式	1,101	1,402	300	330	△29		
外国証券	4,295,623	4,372,990	77,366	239,747	△162,380		
公社債	4,252,388	4,319,327	66,938	229,237	△162,299		
株式等	43,235	53,663	10,428	10,509	△81		
その他の証券	—	—	—	—	—		
買入金銭債権	19,873	21,528	1,655	1,655	—		
譲渡性預金	—	—	—	—	—		
その他	—	—	—	—	—		

(注) 本表には、金融商品取引法上の有価証券として取り扱うことが適当と認められるもの等を含んでいます。

平成26年度末

(単位:百万円)

区 分	帳簿価額	時価	差損益	差益		差損	
				差益	差損		
満期保有目的の債券	4,048,047	4,496,570	448,522	468,442	△19,919		
責任準備金対応債券	1,756,945	1,902,566	145,620	145,659	△39		
子会社・関連会社株式	—	—	—	—	—		
その他有価証券	3,371,655	3,750,900	379,245	429,321	△50,075		
公社債	338,629	372,833	34,204	34,206	△1		
株式	1,098	1,674	575	583	△8		
外国証券	3,014,521	3,356,678	342,156	392,223	△50,066		
公社債	2,862,720	3,182,877	320,157	370,223	△50,066		
株式等	151,801	173,800	21,999	21,999	—		
その他の証券	—	—	—	—	—		
買入金銭債権	17,405	19,713	2,308	2,308	—		
譲渡性預金	—	—	—	—	—		
その他	—	—	—	—	—		
合 計	9,176,648	10,150,036	973,388	1,043,423	△70,034		
公社債	4,605,618	5,149,401	543,782	543,823	△41		
株式	1,098	1,674	575	583	△8		
外国証券	4,550,801	4,977,431	426,629	496,615	△69,985		
公社債	4,399,000	4,803,630	404,630	474,616	△69,985		
株式等	151,801	173,800	21,999	21,999	—		
その他の証券	—	—	—	—	—		
買入金銭債権	19,129	21,529	2,399	2,399	—		
譲渡性預金	—	—	—	—	—		
その他	—	—	—	—	—		

(注) 本表には、金融商品取引法上の有価証券として取り扱うことが適当と認められるもの等を含んでいます。

● 満期保有目的の債券

平成25年度末

(単位:百万円)

区 分	貸借対照表計上額	時価	差額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	3,413,352	3,664,707	251,354
公社債	2,512,287	2,695,439	183,152
外国証券	898,957	967,065	68,107
買入金銭債権	2,107	2,201	94
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	771,488	713,146	△58,341
公社債	—	—	—
外国証券	771,488	713,146	△58,341
買入金銭債権	—	—	—
合 計	4,184,841	4,377,854	193,012

平成26年度末

(単位:百万円)

区 分	貸借対照表計上額	時価	差額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	3,655,547	4,123,989	468,442
公社債	2,510,043	2,874,001	363,957
外国証券	1,143,779	1,248,172	104,392
買入金銭債権	1,724	1,815	91
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	392,500	372,580	△19,919
公社債	—	—	—
外国証券	392,500	372,580	△19,919
買入金銭債権	—	—	—
合 計	4,048,047	4,496,570	448,522

● 責任準備金対応債券

平成25年度末

(単位:百万円)

区 分	貸借対照表計上額	時価	差額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	1,314,056	1,345,545	31,489
公社債	1,314,056	1,345,545	31,489
外国証券	—	—	—
その他	—	—	—
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	103,401	103,071	△330
公社債	103,401	103,071	△330
外国証券	—	—	—
その他	—	—	—
合 計	1,417,458	1,448,617	31,159

平成26年度末

(単位:百万円)

区 分	貸借対照表計上額	時価	差額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	1,719,978	1,865,638	145,659
公社債	1,719,978	1,865,638	145,659
外国証券	—	—	—
その他	—	—	—
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	36,967	36,927	△39
公社債	36,967	36,927	△39
外国証券	—	—	—
その他	—	—	—
合 計	1,756,945	1,902,566	145,620

● その他有価証券(時価を把握することが極めて困難と認められるものを除く)

平成25年度末

(単位:百万円)

区 分	帳簿価額	貸借対照表計上額	差額
貸借対照表計上額が 帳簿価額を超えるもの	1,443,717	1,638,476	194,759
公社債	407,054	428,283	21,228
株式	755	1,085	330
外国証券	1,018,140	1,189,780	171,639
その他の証券	—	—	—
買入金銭債権	17,765	19,327	1,561
譲渡性預金	—	—	—
その他	—	—	—
貸借対照表計上額が 帳簿価額を超えないもの	1,608,884	1,504,806	△104,077
公社債	1,501	1,492	△9
株式	346	316	△29
外国証券	1,607,036	1,502,997	△104,038
その他の証券	—	—	—
買入金銭債権	—	—	—
譲渡性預金	—	—	—
その他	—	—	—
合 計	3,052,601	3,143,283	90,681

平成26年度末

(単位:百万円)

区 分	帳簿価額	貸借対照表計上額	差額
貸借対照表計上額が 帳簿価額を超えるもの	2,609,482	3,038,804	429,321
公社債	338,230	372,436	34,206
株式	1,021	1,605	583
外国証券	2,252,825	2,645,048	392,223
その他の証券	—	—	—
買入金銭債権	17,405	19,713	2,308
譲渡性預金	—	—	—
その他	—	—	—
貸借対照表計上額が 帳簿価額を超えないもの	762,172	712,096	△50,075
公社債	398	397	△1
株式	76	68	△8
外国証券	761,696	711,630	△50,066
その他の証券	—	—	—
買入金銭債権	—	—	—
譲渡性預金	—	—	—
その他	—	—	—
合 計	3,371,655	3,750,900	379,245

● 時価を把握することが極めて困難と認められる有価証券の帳簿価格は以下のとおりです。

(単位:百万円)

区 分	平成25年度末	平成26年度末
満期保有目的の債券	—	—
非上場外国債券	—	—
その他	—	—
責任準備金対応債券	—	—
子会社・関連会社株式	—	—
その他有価証券	360	360
非上場国内株式(店頭売買株式を除く)	360	360
非上場外国株式(店頭売買株式を除く)	—	—
非上場外国債券	—	—
その他	—	—
合 計	360	360

(2) 金銭の信託の時価情報

該当ありません。

### (3) デリバティブ取引の時価情報(ヘッジ会計適用・非適用分の合算値)

#### I. 定性的情報

##### ● 取引の内容

当社の利用しているデリバティブ取引は次の取引です。

金利関連：金利スワップ取引

通貨関連：為替予約取引、通貨オプション取引

株式関連：該当ありません。

債券関連：該当ありません。

その他：シンセティックCDOが内包する  
組込デリバティブ

・為替予約及び通貨オプションにより為替の相場変動を相殺することで、対象債券の元本の円換算額の変動リスクを減少させる取引。

・金利スワップ取引により金利の相場変動を相殺することで、対象債券の外国金利リスクを減少させる取引。

ヘッジ会計の適用にあたっては、「金融商品に関する会計基準」「金融商品会計に関する実務指針」及び「外貨建取引等の会計処理に関する実務指針」等における適用要件を満たすため、社内体制を整備して運営しています。

##### ● 取組方針

当社は、リスクを低減するためのヘッジ目的によるデリバティブ取引の利用に限定しており、その他の目的によるデリバティブ取引の利用を原則禁止しています。したがって、投機目的のデリバティブ取引は行わないこととしています。

##### ● 利用目的

当社が利用しているデリバティブ取引は、外貨建債券の一部に関する為替リスクのヘッジ手段として為替予約取引及び通貨オプション取引を、外国金利リスクのヘッジ手段として金利スワップ取引を行っています。

また、外貨建での利息の受け取り時の為替レートを事前に確定する目的で為替予約取引を行っています。

##### ● デリバティブ取引に対するヘッジ会計の適用

当社では、ヘッジ対象である外貨建債券に係る為替リスク及び外国金利リスクを減少させることを目的として、以下の取引を対象にヘッジ会計を適用しています。

##### ● リスクの内容

当社が利用しているデリバティブ取引は、主として現物運用資産の為替リスク及び外国金利リスクをコントロールすることを目的としていることから、リスクは限定的であると認識しています。

また、当社が保有するシンセティックCDOに内包されている組込デリバティブとはクレジット・デフォルト・スワップであり、ポートフォリオ参照先企業の倒産等により担保債が回収できない信用リスクとデリバティブ取引先が倒産等により契約不履行に陥る信用リスクがあります。

なお、当社ではデリバティブ取引先を信用度の高い金融機関に限定しています。

##### ● リスク管理体制

デリバティブ取引に係るリスクについては、資産運用リスク管理部が主管部となり定量的に把握・分析し、「資産運用リスク・ALM部会」に、その損益状況を定期的に報告する体制を整えています。

#### II. 定量的情報

##### ● 差損益の内訳(ヘッジ会計適用分・非適用分の内訳)

(単位：百万円)

	平成25年度末						平成26年度末					
	金利関連	通貨関連	株式関連	債券関連	その他	合計	金利関連	通貨関連	株式関連	債券関連	その他	合計
ヘッジ会計適用分	△4,899	△1,126	—	—	—	△6,026	△3,074	△18,066	—	—	—	△21,140
ヘッジ会計非適用分	—	—	—	—	1,230	1,230	—	△1,814	—	—	250	△1,563
合計	△4,899	△1,126	—	—	1,230	△4,795	△3,074	△19,880	—	—	250	△22,704

(注) ヘッジ会計適用分のうち時価ヘッジ適用分の差損益、及びヘッジ会計非適用分の差損益は、損益計算書に計上されています。

##### ● ヘッジ会計が適用されていないもの

金利関連：該当ありません。

通貨関連：

(単位：百万円)

区分	種類	平成25年度末				平成26年度末			
		契約額等	うち1年超	時価	差損益	契約額等	うち1年超	時価	差損益
店頭	為替予約 売建	—	—	—	—	16	—	△57	△14
	(米ドル)	—	—	—	—	16	—	△57	△14
	通貨オプション 買建	—	—	—	—	250	—	—	△101
	ドルプット	(—)	—	—	—	(101)	—	—	△101
	(米ドル)	—	—	—	—	250	—	—	△101
	通貨オプション 売建	—	—	—	—	250	—	△1,799	△1,697
ドルコール	(—)	—	—	—	(△101)	—	△1,799	△1,697	
(米ドル)	—	—	—	—	250	—	△1,799	△1,697	
合計		—	—	—	—	516	—	△1,857	△1,814

(注) 1. 「契約額等」欄には、米ドル建想定元本(単位：百万米ドル)を記載しています。( )には、貸借対照表に計上したオプション料(単位：百万円)を記載しています。

2. 「契約額等」合計欄には、買建と売建の米ドル建想定元本(単位：百万米ドル)の合計を記載しています。

3. 「差損益」欄には、為替予約は時価もしくは期間損益を、通貨オプションはオプション料と時価との差額を記載しています。

株式関連：該当ありません。

債券関連：該当ありません。

その他:

(単位:百万円)

区分	種類	平成25年度末				平成26年度末			
		契約額等	うち1年超	時価	差損益	契約額等	うち1年超	時価	差損益
店頭	クレジット・デフォルト・スワップ プロテクション売建	10,000	10,000	△153	1,230	10,000	10,000	97	250
合計		10,000	10,000	△153	1,230	10,000	10,000	97	250

- (注) 1. 本表は、シンセティックCDOが内包する組込デリバティブについて、企業会計基準適用指針第12号「その他の複合金融商品(払込資本を増加させる可能性のある部分を含まない複合金融商品)に関する会計処理」に従い区分処理をしているものを記載しています。  
 2. 「契約額等」欄には、当該デリバティブが組み込まれている複合金融商品の額面金額を記載しています。  
 3. 「差損益」欄には、期中の組込デリバティブの時価の増減を記載しています。

●ヘッジ会計が適用されているもの

金利関連:

(単位:百万円)

ヘッジ会計の方法	種類	平成25年度末			平成26年度末		
		契約額等	うち1年超	時価	契約額等	うち1年超	時価
時価 ヘッジ	金利スワップに係る オプション取引 買建	3,690 (7,180)	—	1,318	470 (554)	—	0
	金利スワップに係る オプション取引 売建	3,690 (△7,180)	—	△6,218	470 (△554)	—	△3,074
合計		7,380	—	△4,899	940	—	△3,074

- (注) 1. 「契約額等」欄には、米ドル建想定元本(単位:百万米ドル)を記載しています。( )には、貸借対照表に計上したオプション料(単位:百万円)を記載しています。  
 2. 「契約額等」合計欄には、買建と売建の米ドル建想定元本(単位:百万米ドル)の合計を記載しています。

通貨関連:

(単位:百万円)

ヘッジ会計の方法	種類	平成25年度末			平成26年度末		
		契約額等	うち1年超	時価	契約額等	うち1年超	時価
時価 ヘッジ	為替予約 売建 (米ドル)	12,076	—	△1,126	13,051	—	△18,024
	通貨オプション 買建 ドルプット (米ドル)	— (—)	—	—	500 (35)	—	9
	通貨オプション 売建 ドルコール (米ドル)	— (—)	—	—	500 (△35)	—	△7
	通貨オプション 売建 ドルコール (米ドル)	— (—)	—	—	500 (△35)	—	△7
	合計	12,076	—	△1,126	14,051	—	△18,023

- (注) 1. 「契約額等」欄には、米ドル建想定元本(単位:百万米ドル)を記載しています。( )には、貸借対照表に計上したオプション料(単位:百万円)を記載しています。  
 2. 「契約額等」合計欄には、買建と売建の米ドル建想定元本(単位:百万米ドル)の合計を記載しています。  
 3. 年度末の為替相場は直物相場を使用しています。

株式関連: 該当ありません。

債券関連: 該当ありません。

その他: 該当ありません。

### 13. 債券(買入金銭債権を含む)・一般貸付の信用格付別残高

貸借対照表計上額

(単位:百万円、%)

格付	平成25年度末		平成26年度末	
	金額	占率	金額	占率
AAA	129,103	1.3	128,028	1.2
AA	4,864,280	49.7	577,029	5.5
A	2,127,494	21.8	6,850,722	65.9
BBB	2,303,439	23.6	2,431,672	23.4
BB以下	354,891	3.6	409,148	3.9
格付けなし	604	0.0	526	0.0
合計	9,779,813	100.0	10,397,129	100.0

- (注) 1. ムーディーズ、スタンダード&プアーズ、フィッチ及び全米保険監督官協会(NAIC)の格付けに基づいて分類しています。  
 2. 発行体、与信先、保証人等が複数の格付会社から異なる格付けを受けている場合、ムーディーズ、スタンダード&プアーズ及びフィッチの格付けのうち2番目に低い格付け(2社から格付けが付与されている場合は低い方の格付け、1社からのみ格付けが付与されている場合はその格付け)に基づいて分類しています。また、これらの格付けがない場合については、原則として、NAICの格付けに基づき分類しています。  
 3. NAICの格付けは、「1」:A以上(便宜上Aとして区分)、「2」:BBB相当、「3以下」:BB以下として表中に区分されています。  
 4. 企業会計基準適用指針第12号「その他の複合金融商品(払込資本を増加させる可能性のある部分を含まない複合金融商品)に関する会計処理」に従い区分処理をしているシンセティックCDOについては、担保債の時価から金融派生商品の金額を加味した金額で算出しています。

## 14. 経常利益等の明細(基礎利益)

(単位:百万円)

区 分	平成25年度	平成26年度
基礎収益	1,951,296	1,830,021
保険料等収入	1,675,768	1,531,663
資産運用収益	274,813	296,936
その他経常収益	714	1,420
基礎費用	1,626,074	1,377,055
保険金等支払金	681,317	707,558
責任準備金等繰入額	614,339	336,166
資産運用費用	432	503
事業費	310,853	308,234
その他経常費用	19,131	24,593
<b>基礎利益 (A)</b>	<b>325,222</b>	<b>452,965</b>
キャピタル収益	12,914	15,226
金銭の信託運用益	—	—
売買目的有価証券運用益	—	—
有価証券売却益	12,776	7,820
金融派生商品収益	—	—
為替差益	138	7,406
その他キャピタル収益	—	—
キャピタル費用	23,971	13,922
金銭の信託運用損	—	—
売買目的有価証券運用損	—	—
有価証券売却損	9,402	2,669
有価証券評価損	8,130	1,085
金融派生商品費用	6,439	10,167
為替差損	—	—
その他キャピタル費用	—	—
<b>キャピタル損益 (B)</b>	<b>△11,057</b>	<b>1,304</b>
<b>キャピタル損益含み基礎利益 (A) + (B)</b>	<b>314,165</b>	<b>454,269</b>
臨時収益	—	2,823
再保険収入	—	—
危険準備金戻入額	—	—
個別貸倒引当金戻入額	—	2,823
その他臨時収益	—	—
臨時費用	9,325	6,619
再保険料	—	—
危険準備金繰入額	2,164	4,419
個別貸倒引当金繰入額	6,513	—
特定海外債権引当勘定繰入額	—	—
貸付金償却	150	2,000
その他臨時費用	498	200
<b>臨時損益 (C)</b>	<b>△9,325</b>	<b>△3,795</b>
<b>経常利益 (A) + (B) + (C)</b>	<b>304,839</b>	<b>450,474</b>

(参考) その他臨時収益等の内訳

(単位:百万円)

	平成25年度	平成26年度
その他臨時収益	—	—
その他臨時費用	498	200
責任準備金繰入額	498	200

(注) 「責任準備金繰入額」には、平成10年大蔵省告示第231号及び平成12年金融監督庁・大蔵省告示第22号に基づき実施した第三分野保険のストレステスト及び負債十分性テストの結果を踏まえ、第三分野保険の一部の契約を対象として計上した保険料積立金を記載しています。

### ● 基礎利益の内訳(三利源)

(単位:百万円)

	平成25年度	平成26年度
基礎利益	325,222	452,965
うち危険差損益	266,494	361,732
うち費差損益	32,937	47,484
うち順ざや額	25,790	43,749

## 15. 代表者による財務諸表の適正性及び財務諸表作成に係る内部監査の有効性に関する確認書

### 確 認 書

平成 27 年 7 月 10 日

アメリカン ファミリー ライフ アシュアランス カンパニー オブ コロンバス  
日本における代表者・社長

山内 裕司

私は、当社の平成 26 年度の財務諸表(貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書、附属明細書)が保険業法等の法令に準拠し、すべての重要な点において、適正に表示されていることを確認いたしました。

以 上

## 16. 継続企業の前提に重要な疑義を生じさせる事象または状況

該当ありません。



# 業務の状況を示す指標等

## 1. 主要な業務の状況を示す指標等

### (1) 保有契約高及び新契約高

#### ● 保有契約高

(単位:千件、百万円、%)

区 分	平成25年度末				平成26年度末			
	件数	前年度末比	金額	前年度末比	件数	前年度末比	金額	前年度末比
個人保険	22,657	101.6	13,263,201	101.8	22,981	101.4	13,289,344	100.2
個人年金保険	321	116.0	1,225,561	118.9	334	104.0	1,283,296	104.7
合 計	22,979	101.8	14,488,762	103.1	23,316	101.5	14,572,641	100.6
団体保険	—	—	—	—	—	—	—	—
団体年金保険	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 個人年金保険の金額は、年金支払開始前契約の年金支払開始時における年金原資と年金支払開始後契約の各時点における責任準備金を合計したものです。

#### ● 新契約高

(単位:千件、百万円、%)

区 分	平成25年度						平成26年度					
	件数	前年度比	金額	前年度比	新契約	転換による純増加	件数	前年度比	金額	前年度比	新契約	転換による純増加
個人保険	1,506	87.9	944,841	41.0	944,841	—	1,539	102.2	710,691	75.2	710,691	—
個人年金保険	50	126.1	226,892	127.9	226,892	—	18	36.9	90,058	39.7	90,058	—
合 計	1,557	88.7	1,171,733	47.2	1,171,733	—	1,558	100.1	800,750	68.3	800,750	—
団体保険	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
団体年金保険	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 個人年金保険の金額は、年金支払開始時における年金原資です。

### (2) 年換算保険料

#### ● 保有契約

(単位:百万円、%)

区 分	平成25年度末		平成26年度末	
	金額	前年度末比	金額	前年度末比
個人保険	1,277,562	101.2	1,290,014	101.0
個人年金保険	65,521	128.0	71,181	108.6
合 計	1,343,084	102.2	1,361,196	101.3
うち医療保障・生前給付保障等	1,022,986	100.0	1,025,914	100.3

#### ● 新契約

(単位:百万円、%)

区 分	平成25年度		平成26年度	
	金額	前年度比	金額	前年度比
個人保険	87,361	73.5	87,494	100.2
個人年金保険	14,679	155.6	5,638	38.4
合 計	102,041	79.5	93,132	91.3
うち医療保障・生前給付保障等	60,823	105.3	66,796	109.8

(注) 1. 年換算保険料とは、1回あたりの保険料について保険料の支払方法に応じた係数を乗じ、1年あたりの保険料に換算した金額です(一時払契約等は、保険料を保険期間で除した金額)。

2. 「医療保障・生前給付保障等」については、医療保障給付(入院給付、手術給付等)、生前給付保障給付(特定疾病給付、介護給付等)、保険料払込免除給付(障害を事由とするものは除く。特定疾病罹患、介護等を事由とするものを含む)等に該当する部分の年換算保険料を計上しています。

### (3) 保障機能別保有契約高

#### ● 死亡保障、生存保障、入院保障

(単位:百万円)

区 分			保有金額	
			平成25年度末	平成26年度末
死亡保障	普通死亡	個人保険	11,759,209	11,664,628
		個人年金保険	—	—
		団体保険	—	—
		団体年金保険	—	—
		その他共計	11,759,209	11,664,628
	災害死亡	個人保険	(3,212,869)	(3,065,668)
		個人年金保険	(—)	(—)
		団体保険	(—)	(—)
		団体年金保険	(—)	(—)
		その他共計	(3,212,869)	(3,065,668)
	その他の条件付死亡	個人保険	(12,232,876)	(11,568,255)
		個人年金保険	(—)	(—)
		団体保険	(—)	(—)
		団体年金保険	(—)	(—)
		その他共計	(12,232,876)	(11,568,255)
生存保障	満期・生存給付	個人保険	(291,163)	(276,620)
		個人年金保険	1,503,991	1,624,716
		団体保険	—	—
		団体年金保険	—	—
		その他共計	(2,997,299)	(3,153,820)
	年金	個人保険	(601,139)	(580,667)
		個人年金保険	(177,665)	(186,577)
		団体保険	(—)	(—)
		団体年金保険	(—)	(—)
		その他共計	(778,805)	(767,245)
	その他	個人保険	—	—
		個人年金保険	23,417	30,812
		団体保険	—	—
		団体年金保険	—	—
		その他共計	23,417	30,812
入院保障	災害入院	個人保険	(47,188)	(47,303)
		個人年金保険	(—)	(—)
		団体保険	(—)	(—)
		団体年金保険	(—)	(—)
		その他共計	(47,188)	(47,303)
	疾病入院	個人保険	(46,983)	(47,124)
		個人年金保険	(—)	(—)
		団体保険	(—)	(—)
		団体年金保険	(—)	(—)
		その他共計	(46,983)	(47,124)
	その他の条件付入院	個人保険	(250,276)	(243,642)
		個人年金保険	(—)	(—)
		団体保険	(—)	(—)
		団体年金保険	(—)	(—)
		その他共計	(250,276)	(243,642)

- (注) 1. ( )内数値は、主契約の付随保障部分及び特約の保障を表します。ただし、定期特約等の普通死亡保障は、主要保障部分に計上しています。  
 2. 生存保障の満期・生存給付欄の個人年金保険の金額は、年金支払開始前契約の年金支払開始時における年金原資を表します。  
 3. 生存保障の満期・生存給付欄のその他共計の金額は、主要保障部分と付随保障部分の合計を表します。  
 4. 生存保障の年金欄の金額は、年金年額を表します。  
 5. 生存保障のその他欄の個人年金保険の金額は、年金支払開始後契約の各時点における責任準備金を表します。  
 6. 入院保障欄の金額は、入院給付金日額を表します。

● 障害保障、手術保障

(単位:件)

区 分		保有件数	
		平成25年度末	平成26年度末
障害保障	個人保険	145,547	142,307
	個人年金保険	—	—
	団体保険	—	—
	団体年金保険	—	—
	その他共計	145,547	142,307
手術保障	個人保険	14,686,946	14,986,068
	個人年金保険	—	—
	団体保険	—	—
	団体年金保険	—	—
	その他共計	14,686,946	14,986,068

(4) 個人保険及び個人年金保険契約種類別保有契約高

(単位:百万円)

区 分		保有金額	
		平成25年度末	平成26年度末
死亡保険	終身保険	4,041,502	4,159,968
	定期付終身保険	—	—
	定期保険	2,953,085	2,933,318
	その他共計	11,721,040	11,631,034
生死混合保険	養老保険	38,169	33,594
	定期付養老保険	—	—
	生存給付金付定期保険	—	—
	その他共計	1,542,160	1,658,310
生存保険		—	—
年金保険	個人年金保険	1,225,561	1,283,296
災害・疾病関係特約	災害割増特約	1,495,577	1,437,452
	傷害特約	1,469,957	1,392,927
	災害入院特約	23,947	22,622
	疾病入院特約	11,519	10,859
	重大疾病入院特約	2,044	1,892
	重大疾病治療特約	653,839	608,508
	がん特約	2,480	2,597
	女性疾病特約	6,160	6,424
	通院特約	36,944	35,967
	長期入院特約	2,367	2,185
	手術特約	1,075,429	1,082,629
	特定損傷特約	638	576
	先進医療特約	7,995,459	8,661,222
	その他	763,826	1,072,259

(注) 1. 個人年金保険の金額は、年金支払開始前契約の年金支払開始時における年金原資と年金支払開始後契約の各時点における責任準備金を合計したものです。

2. 災害・疾病関係特約において、災害割増特約及び傷害特約の金額は災害死亡保険金額を、入院特約及び女性疾病特約の金額は入院給付日額を、通院特約の金額は通院給付日額を、重大疾病治療特約の金額は重大疾病死亡保険金額を、上記以外の特約の金額は特約給付金額を表します。

## (5) 商品別新契約高

(注) 当社では、団体保険・団体年金保険の取り扱いはありません。

### ● 件数

#### 個人保険

(単位:件、%)

区 分	平成25年度		平成26年度	
	件数	占率	件数	占率
がん保険	600,814	39.9	814,833	52.9
介護保険	3,877	0.3	3,058	0.2
医療保険	702,674	46.6	565,047	36.7
一時払三大疾病保障保険	1	0.0	—	—
三大疾病保障終身保険	16,186	1.1	10,152	0.7
終身・定期・養老・こども保険	183,200	12.2	146,768	9.5
終身保険	84,250	5.6	59,946	3.9
定期保険	24,274	1.6	21,107	1.4
養老保険	191	0.0	—	—
こども保険	74,485	4.9	65,715	4.3
定期特約	(7,140)	—	(4,939)	—
終身特約	(98,614)	—	(73,425)	—
合 計	1,506,752	100.0	1,539,858	100.0

(注) ( )内数値は、特約の件数のため合計の数値には含まれません。

#### 個人年金保険

(単位:件、%)

区 分	平成25年度		平成26年度	
	件数	占率	件数	占率
個人年金保険	50,986	100.0	18,795	100.0

#### 個人保険・個人年金保険(合計)

(単位:件)

区 分	平成25年度	平成26年度
個人保険・個人年金保険	1,557,738	1,558,653

### ● 金額

#### 個人保険

(単位:百万円、%)

区 分	平成25年度		平成26年度	
	金額	占率	金額	占率
がん保険	27	0.0	6,197	0.9
介護保険	4,502	0.5	3,401	0.5
医療保険	—	—	—	—
一時払三大疾病保障保険	1	0.0	—	—
三大疾病保障終身保険	31,228	3.3	19,801	2.8
終身・定期・養老・こども保険	909,082	96.2	681,291	95.9
終身保険	328,453	34.8	223,977	31.5
定期保険	259,855	27.5	205,413	28.9
養老保険	484	0.1	—	—
こども保険	160,164	17.0	144,013	20.3
定期特約	35,999	3.8	20,332	2.9
終身特約	124,125	13.1	87,554	12.3
合 計	944,841	100.0	710,691	100.0

#### 個人年金保険

(単位:百万円、%)

区 分	平成25年度		平成26年度	
	金額	占率	金額	占率
個人年金保険	226,892	100.0	90,058	100.0

(注) 金額は、年金支払開始時における年金原資です。

#### 個人保険・個人年金保険(合計)

(単位:百万円)

区 分	平成25年度	平成26年度
個人保険・個人年金保険	1,171,733	800,750

## (6) 商品別保有契約高

(注) 当社では、団体保険・団体年金保険の取り扱いはありません。

### ● 件数

#### 個人保険

(単位: 件、%)

区分	平成25年度末		平成26年度末	
	件数	占率	件数	占率
がん保険	14,672,881	64.8	14,729,569	64.1
介護保険	515,249	2.3	496,755	2.2
医療保険	5,431,598	24.0	5,638,996	24.5
一時払三大疾病保障保険	2,423	0.0	2,382	0.0
三大疾病保障終身保険	144,889	0.6	146,335	0.6
終身・定期・養老・こども保険	1,878,214	8.3	1,956,489	8.5
終身保険	890,280	3.9	915,948	4.0
定期保険	289,582	1.3	289,535	1.3
養老保険	13,198	0.1	11,583	0.1
こども保険	685,154	3.0	739,423	3.2
定期特約	(229,710)	—	(217,376)	—
終身特約	(688,110)	—	(703,126)	—
傷害保険	12,551	0.1	11,329	0.0
合計	22,657,805	100.0	22,981,855	100.0

(注) ( ) 内数値は、特約の件数のため合計の数値には含まれません。

#### 個人年金保険

(単位: 件、%)

区分	平成25年度末		平成26年度末		
	件数	占率	件数	占率	
個人年金保険	年金開始前	303,309	94.3	310,801	92.9
	年金開始後	18,407	5.7	23,698	7.1
合計	321,716	100.0	334,499	100.0	

#### 個人保険・個人年金保険(合計)

(単位: 件)

区分	平成25年度末	平成26年度末
個人保険・個人年金保険	22,979,521	23,316,354

### ● 金額

#### 個人保険

(単位: 百万円、%)

区分	平成25年度末		平成26年度末	
	金額	占率	金額	占率
がん保険	1,322,386	10.0	1,254,607	9.4
介護保険	692,205	5.2	668,425	5.0
医療保険	41,777	0.3	38,437	0.3
一時払三大疾病保障保険	4,679	0.0	4,618	0.0
三大疾病保障終身保険	310,607	2.3	312,279	2.3
終身・定期・養老・こども保険	10,891,544	82.1	11,010,974	82.9
終身保険	3,730,894	28.1	3,847,689	29.0
定期保険	2,953,085	22.3	2,933,318	22.1
養老保険	38,169	0.3	33,594	0.3
こども保険	1,503,991	11.3	1,624,716	12.2
定期特約	1,713,828	12.9	1,613,424	12.1
終身特約	951,575	7.2	958,231	7.2
傷害保険	—	—	—	—
合計	13,263,201	100.0	13,289,344	100.0

#### 個人年金保険

(単位: 百万円、%)

区分	平成25年度末		平成26年度末		
	金額	占率	金額	占率	
個人年金保険	年金開始前	1,202,144	98.1	1,252,484	97.6
	年金開始後	23,417	1.9	30,812	2.4
合計	1,225,561	100.0	1,283,296	100.0	

(注) 年金開始前の金額は、年金支払開始時における年金原資、年金開始後の金額は、各時点における責任準備金です。

#### 個人保険・個人年金保険(合計)

(単位: 百万円)

区分	平成25年度末	平成26年度末
個人保険・個人年金保険	14,488,762	14,572,641

## (7) 異動状況の推移

(注) 当社では、団体保険・団体年金保険の取り扱いはないため、団体保険及び団体年金保険に関する記述を省略しています。

### ● 個人保険

(単位：件、百万円、%)

区 分	平成25年度		平成26年度	
	件数	金額	件数	金額
年度始現在	22,297,660	13,028,761	22,657,805	13,263,201
新契約	1,506,752	944,841	1,539,858	710,691
更新	35,873	135,483	30,339	115,018
復活	60,702	35,852	30,927	18,623
保険金額の増加	—	2,512	—	2,393
転換による増加	—	—	—	—
その他の増加	44,411	22,234	42,721	19,425
死亡	72,711	27,548	77,852	28,483
満期	57,349	168,787	49,372	147,220
解約・失効	1,104,281	642,712	1,141,465	600,469
うち解約	916,907	528,549	993,463	521,081
うち失効	187,374	114,162	148,002	79,388
保険金額の減少	—	28,376	—	27,862
転換による減少	—	—	—	—
その他の減少	53,252	39,059	51,106	35,973
年度末現在 (増加率)	22,657,805 (1.6)	13,263,201 (1.8)	22,981,855 (1.4)	13,289,344 (0.2)
純増加 (増加率)	360,145 (△49.4)	234,439 (△85.1)	324,050 (△10.0)	26,143 (△88.8)

(注) 金額は、死亡保険、生死混合保険の主要保障部分の合計です。

### ● 個人年金保険

(単位：件、百万円、%)

区 分	平成25年度		平成26年度	
	件数	金額	件数	金額
年度始現在	277,265	1,030,737	321,716	1,225,561
新契約	50,986	226,892	18,795	90,058
復活	162	1,112	145	759
金額の増加	—	—	—	—
転換による増加	—	—	—	—
その他の増加	6,514	14,716	7,392	17,513
死亡	331	1,084	443	1,597
支払満了	1,443	442	1,492	445
解約・失効	7,209	29,138	6,796	27,158
うち解約	6,641	26,516	6,350	25,375
うち失効	568	2,622	446	1,783
金額の減少	—	5,851	—	8,235
転換による減少	—	—	—	—
その他の減少	4,228	11,381	4,818	13,159
年度末現在 (増加率)	321,716 (16.0)	1,225,561 (18.9)	334,499 (4.0)	1,283,296 (4.7)
純増加 (増加率)	44,451 (31.2)	194,823 (33.9)	12,783 (△71.2)	57,735 (△70.4)

(注) 金額は、年金支払開始前契約の年金支払開始時における年金原資と年金支払開始後契約の各時点における責任準備金を合計したものです。

● 個人保険・個人年金保険(合計)

(単位:件、百万円、%)

区 分	平成25年度		平成26年度	
	件数	金額	件数	金額
年度始現在	22,574,925	14,059,499	22,979,521	14,488,762
新契約	1,557,738	1,171,733	1,558,653	800,750
更新	35,873	135,483	30,339	115,018
復活	60,864	36,964	31,072	19,382
保険金額の増加/金額の増加	—	2,512	—	2,393
転換による増加	—	—	—	—
その他の増加	50,925	36,951	50,113	36,939
死亡	73,042	28,633	78,295	30,080
満期/支払満了	58,792	169,230	50,864	147,666
解約・失効	1,111,490	671,851	1,148,261	627,628
うち解約	923,548	555,065	999,813	546,457
うち失効	187,942	116,785	148,448	81,171
保険金額の減少/金額の減少	—	34,228	—	36,098
転換による減少	—	—	—	—
その他の減少	57,480	50,440	55,924	49,132
年度末現在	22,979,521	14,488,762	23,316,354	14,572,641
(増加率)	(1.8)	(3.1)	(1.5)	(0.6)
純増加	404,596	429,262	336,833	83,878
(増加率)	(△45.7)	(△75.1)	(△16.7)	(△80.5)

## (8) 契約者配当の状況

### ● 配当の仕組み

利差配当は「5年ごと配当付個人年金保険〔利差・死差配当〕」及び「5年ごと利差配当付こども保険」を対象とし、実際の運用利回りが予定利率を上回った場合、実際の運用益とあらかじめ見込まれた運用益の状況に応じて、5年ごとに配当としてお支払いするものです。

責任準備金等の運用益が予定した運用益を超えた場合、当社の定める利差配当の配当基準利回りと予定利率の差に基づき、契約者配当準備金を積み立てます。逆に、責任準備金等の運用益が当初の予定した運用益を下回ったときは、それまでに積み立てた契約者配当準備金を取り崩します。よって、契約者配当金は、ご契約後5年ごとの契約応当日を迎えるまではお支払いをお約束するものではなく、今後の運用実績によってはお支払いできないこともあります。

なお、5年ごとの契約者配当金のお支払い前に、ご契約を解約もしくは減額された場合（ただし、契約日から2年を経過した後）、または死亡給付金のお支払い等によってご契約が消滅した場合（ただし、契約日から1年を経過した後）にも契約者配当金をお支払いすることがありますが、解約もしくは減額の場合は、死亡給付金のお支払い等の場合に比べその金額は少なくなります。

死差配当は「5年ごと配当付個人年金保険〔利差・死差配当〕」のうち、保証期間付終身年金における年金支払開始後のご契約のみを対象とし、実際の生存率と予定生存率の状況に応じて死差配当率を定め、5年ごとに配当としてお支払いするものです。

契約者配当金は、年金支払開始後の5年ごとの契約応当日を迎えるまではお支払いをお約束するものではなく、今後の実績によってはお支払いできないこともあります。

### ● 平成26年度決算に基づく契約者配当の状況

平成26年度は、36百万円の契約者配当金をお支払いしました。この結果、平成26年度末における契約者配当準備金の残高は299百万円となっています。

### 平成26年度決算に基づく契約者配当の例示

平成26年度決算においては、利差配当の配当基準利回り1.15%と予定利率（月払・半年払・年払：平成13年4月1日以前の契約2.15%、平成13年4月2日から平成25年4月1日の契約1.65%、平成25年4月2日以降の契約1.15%、一時払：1.90%）との差に基づき、利差配当金を計算しています。なお、死差配当金はありません。

平成26年度決算に基づく契約者配当金を例示すると以下のとおりです。

〈例1〉「5年ごと配当付個人年金保険〔利差・死差配当〕無選択加入特例なし」の場合  
40歳加入、60歳払済、60歳年金支払開始、  
女性、月払、5年確定年金、基本年金額50万円

契約日(経過年数)	保険料	継続中の契約	死亡契約
平成11年10月1日(16年)	9,355円	—円	0円
平成12年10月1日(15年)	9,355円	0円	0円
平成13年10月1日(14年)	9,920円	—円	0円
平成14年10月1日(13年)	9,920円	—円	0円
平成15年10月1日(12年)	9,920円	—円	0円
平成16年10月1日(11年)	9,920円	—円	0円
平成17年10月1日(10年)	9,920円	0円	0円
平成18年10月1日(9年)	9,920円	—円	0円
平成19年10月1日(8年)	9,920円	—円	0円
平成20年10月1日(7年)	9,920円	—円	0円
平成21年10月1日(6年)	9,920円	—円	0円
平成22年10月1日(5年)	9,920円	0円	0円
平成23年10月1日(4年)	9,920円	—円	0円
平成24年10月1日(3年)	9,920円	—円	0円
平成25年10月1日(2年)	10,345円	—円	0円
平成26年10月1日(1年)	10,345円	—円	0円

〈例2〉「5年ごと配当付個人年金保険〔利差・死差配当〕無選択加入特例付」の場合  
40歳加入、60歳払済、60歳年金支払開始、  
女性、月払、5年確定年金、基本年金額50万円

契約日(経過年数)	保険料	継続中の契約	死亡契約
平成14年10月1日(13年)	9,890円	—円	0円
平成15年10月1日(12年)	9,890円	—円	0円
平成16年10月1日(11年)	9,890円	—円	0円
平成17年10月1日(10年)	9,890円	0円	0円
平成18年10月1日(9年)	9,890円	—円	0円
平成19年10月1日(8年)	9,885円	—円	0円
平成20年10月1日(7年)	9,885円	—円	0円
平成21年10月1日(6年)	9,885円	—円	0円
平成22年10月1日(5年)	9,885円	0円	0円
平成23年10月1日(4年)	9,885円	—円	0円
平成24年10月1日(3年)	9,885円	—円	0円
平成25年10月1日(2年)	10,310円	—円	0円
平成26年10月1日(1年)	10,310円	—円	0円

〈例3〉「5年ごと利差配当付こども保険」の場合  
被保険者(お子さま)0歳、契約者30歳男性加入、18歳満期、  
月払、基準祝金額150万円、保険料払込免除特例付

契約日(経過年数)	保険料	継続中の契約	死亡契約
平成13年10月1日(14年)	8,850円	—円	0円
平成14年10月1日(13年)	8,850円	—円	0円
平成15年10月1日(12年)	8,850円	—円	0円
平成16年10月1日(11年)	8,850円	—円	0円
平成17年10月1日(10年)	8,850円	0円	0円
平成18年10月1日(9年)	8,850円	—円	0円
平成19年10月1日(8年)	8,850円	—円	0円
平成20年10月1日(7年)	8,850円	—円	0円
平成21年10月1日(6年)	8,850円	—円	0円

本商品はすでに販売を停止しており、販売していた期間の契約を例示しています。

(注) 1. 経過年数とは平成27年4月1日から平成28年3月31日の間の契約応当日での経過を示します。

2. 「死亡契約」欄は契約応当日以後に被保険者が死亡された場合の受領金額を示します。

3. 前記受領金額は、責任準備金、予定利率及び各事業年度ごとの利差配当の配当基準利回りにより計算した利差配当を示します。



● 平成25年度決算に基づく契約者配当の状況

平成25年度は、37百万円の契約者配当金をお支払いしました。この結果、平成25年度末における契約者配当準備金の残高は335百万円となっています。

平成25年度決算に基づく契約者配当の例示

平成25年度決算においては、利差配当の配当基準利回り1.15%と予定利率(月払・半年払・年払:平成13年4月1日以前の契約2.15%、平成13年4月2日から平成25年4月1日の契約1.65%、平成25年4月2日以降の契約1.15%、一時払:1.90%)との差に基づき、利差配当金を計算しています。なお、死差配当金はありません。

平成25年度決算に基づく契約者配当金を例示すると以下のとおりです。

〈例1〉「5年ごと配当付個人年金保険(利差・死差配当) 無選択加入特則なし」の場合  
40歳加入、60歳払済、60歳年金支払開始、  
女性、月払、5年確定年金、基本年金額50万円

契約日(経過年数)	保険料	継続中の契約	死亡契約
平成11年10月1日(15年)	9,355円	0円	0円
平成12年10月1日(14年)	9,355円	—円	0円
平成13年10月1日(13年)	9,920円	—円	0円
平成14年10月1日(12年)	9,920円	—円	0円
平成15年10月1日(11年)	9,920円	—円	0円
平成16年10月1日(10年)	9,920円	0円	0円
平成17年10月1日(9年)	9,920円	—円	0円
平成18年10月1日(8年)	9,920円	—円	0円
平成19年10月1日(7年)	9,920円	—円	0円
平成20年10月1日(6年)	9,920円	—円	0円
平成21年10月1日(5年)	9,920円	0円	0円
平成22年10月1日(4年)	9,920円	—円	0円
平成23年10月1日(3年)	9,920円	—円	0円
平成24年10月1日(2年)	9,920円	—円	0円
平成25年10月1日(1年)	10,345円	—円	0円

〈例2〉「5年ごと配当付個人年金保険(利差・死差配当) 無選択加入特則付」の場合  
40歳加入、60歳払済、60歳年金支払開始、  
女性、月払、5年確定年金、基本年金額50万円

契約日(経過年数)	保険料	継続中の契約	死亡契約
平成14年10月1日(12年)	9,890円	—円	0円
平成15年10月1日(11年)	9,890円	—円	0円
平成16年10月1日(10年)	9,890円	0円	0円
平成17年10月1日(9年)	9,890円	—円	0円
平成18年10月1日(8年)	9,890円	—円	0円
平成19年10月1日(7年)	9,885円	—円	0円
平成20年10月1日(6年)	9,885円	—円	0円
平成21年10月1日(5年)	9,885円	0円	0円
平成22年10月1日(4年)	9,885円	—円	0円
平成23年10月1日(3年)	9,885円	—円	0円
平成24年10月1日(2年)	9,885円	—円	0円
平成25年10月1日(1年)	10,310円	—円	0円

〈例3〉「5年ごと利差配当付こども保険」の場合  
被保険者(お子さま)0歳、契約者30歳男性加入、18歳満期、  
月払、基準祝金額150万円、保険料払込免除特則付

契約日(経過年数)	保険料	継続中の契約	死亡契約
平成13年10月1日(13年)	8,850円	—円	0円
平成14年10月1日(12年)	8,850円	—円	0円
平成15年10月1日(11年)	8,850円	—円	0円
平成16年10月1日(10年)	8,850円	0円	0円
平成17年10月1日(9年)	8,850円	—円	0円
平成18年10月1日(8年)	8,850円	—円	0円
平成19年10月1日(7年)	8,850円	—円	0円
平成20年10月1日(6年)	8,850円	—円	0円
平成21年10月1日(5年)	8,850円	0円	0円

本商品はすでに販売を停止しており、販売していた期間の契約を例示しています。

- (注) 1. 経過年数とは平成26年4月1日から平成27年3月31日の間の契約応当日での経過を示します。  
2. 「死亡契約」欄は契約応当日以後に被保険者が死亡された場合の受領金額を示します。  
3. 前記受領金額は、責任準備金、予定利率及び各事業年度ごとの利差配当の配当基準利回りにより計算した利差配当を示します。

## 2. 保険契約に関する指標等

(注) 当社では、団体保険・団体年金保険の取り扱いはないため、本ページでは団体保険及び団体年金保険に関する記述を省略しています。

### (1) 保有契約増加率

#### ● 件数

(単位：%)

区分	平成25年度	平成26年度
個人保険	1.6	1.4
個人年金保険	15.2	2.5
合計	1.8	1.4

(注) 個人年金保険は、年金支払開始前契約についての率です。

#### ● 金額

(単位：%)

区分	平成25年度	平成26年度
個人保険	1.8	0.2
個人年金保険	18.5	4.2
合計	3.0	0.5

(注) 個人年金保険は、年金支払開始前契約についての率です。

### (2) 新契約平均保険金及び保有契約平均保険金(個人保険)

(単位：千円)

区分	平成25年度	平成26年度
新契約平均保険金	627	461
保有契約平均保険金	585	578

### (3) 新契約率(対年度始)

#### ● 件数

(単位：%)

区分	平成25年度	平成26年度
個人保険	6.8	6.8
個人年金保険	19.4	6.2
合計	6.9	6.8

(注) 個人年金保険は、年金支払開始前契約についての率です。

#### ● 金額

(単位：%)

区分	平成25年度	平成26年度
個人保険	7.3	5.4
個人年金保険	22.4	7.5
合計	8.3	5.5

(注) 個人年金保険は、年金支払開始前契約についての率です。

### (4) 解約失効率(対年度始)

#### ● 件数

(単位：%)

区分	平成25年度	平成26年度
個人保険	4.7	4.9
個人年金保険	2.7	2.2
合計	4.7	4.9

(注) 1. 上記の数値は、解約・失効件数から復活の件数を相殺して算出しています。  
2. 個人年金保険は、年金支払開始前契約についての率です。

#### ● 金額

(単位：%)

区分	平成25年度	平成26年度
個人保険	4.7	4.4
個人年金保険	2.8	2.2
合計	4.5	4.2

(注) 1. 上記の数値は、解約・失効高から復活の金額を相殺して算出しています。  
2. 個人年金保険は、年金支払開始前契約についての率です。

### (5) 個人保険新契約平均保険料(月払契約)

(単位：円)

平成25年度	平成26年度
58,934	57,810

(注) 年換算保険料(平均月払保険料×12)を表示しています。

### (6) 死亡率(個人保険主契約)

(単位：%)

区分	平成25年度	平成26年度
件数	3.2	3.4
金額	1.9	1.8

### (7) 特約発生率(個人保険)

(単位：%)

区分	平成25年度	平成26年度
災害死亡保障契約	件数	0.3
	金額	0.2
障害保障契約	件数	0.1
	金額	0.0
災害入院保障契約	件数	5.7
	金額	157.9
疾病入院保障契約	件数	58.3
	金額	1,034.5
成人病入院保障契約	件数	7.7
	金額	208.3
疾病・傷害手術保障契約	件数	51.5
	金額	54.9
成人病手術保障契約	件数	—

(注) 医療保険の主契約、傷害保険及び終身保険〔無選択型〕も対象としています。

### (8) 事業費率(対収入保険料)

(単位：%)

平成25年度	平成26年度
18.8	20.6

### (9) 保険契約を再保険に付した場合における、再保険を引き受けた主要な保険会社等の数

(単位：社)

平成25年度	平成26年度
4	4

(うち第三分野)

(単位：社)

平成25年度	平成26年度
3	4

### (10) 保険契約を再保険に付した場合における、再保険を引き受けた保険会社等のうち、支払再保険料の額が大きい上位5社に対する支払再保険料の割合

(単位：%)

平成25年度	平成26年度
100.0	100.0

(うち第三分野)

(単位：%)

平成25年度	平成26年度
97.2	97.7

(11) 保険契約を再保険に付した場合における、再保険を引き受けた主要な保険会社等の格付機関による格付に基づく区分ごとの支払再保険料の割合

(単位: %)

格付区分	平成25年度	平成26年度
AA	—	—
AA-	92.9	93.0
A+	7.1	7.0

(注) 格付けは、スタンダード&プアーズ(S&P)によるものに基づいています。

(うち第三分野) (単位: %)

格付区分	平成25年度	平成26年度
AA	—	—
AA-	90.2	90.8
A+	7.0	6.9

(注) 格付けは、スタンダード&プアーズ(S&P)によるものに基づいています。

(12) 未だ収受していない再保険金の額

(単位: 百万円)

平成25年度末	平成26年度末
6,963	9,863

(うち第三分野) (単位: 百万円)

平成25年度末	平成26年度末
6,873	9,794

(13) 第三分野保険の給付事由又は保険種類の区分ごとの、発生保険金額の経過保険料に対する割合

(単位: %)

区 分	平成25年度	平成26年度
第三分野発生率	43.6	44.4
医療(疾病)	30.0	31.4
がん	56.5	56.8
介護	19.9	20.6
その他	10.4	11.1

(注) 上記の数値は、医療保障・生前給付保障等についての発生率を以下の算式により算出しています。

{保険金・給付金等の支払額+対応する支払備金繰入額+保険金支払いに係る事業費等}÷{(年度始保有契約年換算保険料+年度末保有契約年換算保険料)÷2}

### 3. 経理に関する指標等

(1) 支払備金明細表

(単位: 百万円)

区 分	平成25年度末	平成26年度末
保険金		
死亡保険金	10,744	10,695
災害保険金	169	158
高度障害保険金	537	597
満期保険金	40	36
その他	310	287
小 計	11,802	11,774
年金	808	1,012
給付金	82,872	83,715
解約返戻金	15,689	13,677
保険金据置支払金	46	46
その他共計	111,283	110,296

(2) 責任準備金明細表

(単位: 百万円)

区 分	平成25年度末	平成26年度末
責任準備金 (除危険準備金)		
個人保険	8,293,521	8,544,071
(一般勘定)	8,293,521	8,544,071
(特別勘定)	—	—
個人年金保険	648,035	733,851
(一般勘定)	648,035	733,851
(特別勘定)	—	—
団体保険	—	—
(一般勘定)	—	—
(特別勘定)	—	—
団体年金保険	—	—
(一般勘定)	—	—
(特別勘定)	—	—
その他	—	—
(一般勘定)	—	—
(特別勘定)	—	—
小 計	8,941,556	9,277,922
(一般勘定)	8,941,556	9,277,922
(特別勘定)	—	—
危険準備金	79,740	84,159
合 計	9,021,296	9,362,081
(一般勘定)	9,021,296	9,362,081
(特別勘定)	—	—

### (3) 責任準備金残高の内訳

(単位:百万円)

区 分	平成25年度末	平成26年度末
保険料積立金	7,563,302	7,983,853
未経過保険料	1,378,254	1,294,069
払戻積立金	—	—
危険準備金	79,740	84,159
合 計	9,021,296	9,362,081

### (4) 個人保険及び個人年金保険の責任準備金の積立方式、積立率、残高(契約年度別)

#### ● 責任準備金の積立方式、積立率

区 分	平成25年度末	平成26年度末
積立方式	標準責任準備金対象契約 内閣総理大臣が定める方式 (平成8年大蔵省告示第48号)	内閣総理大臣が定める方式 (平成8年大蔵省告示第48号)
	標準責任準備金対象外契約 平準純保険料式	平準純保険料式
積立率(危険準備金を除く)	100.1%	100.1%

(注) 1. 積立方式及び積立率は、個人保険及び個人年金保険を対象としています。なお、当社では団体保険・団体年金保険の取り扱いはありません。

2. 積立率については、標準責任準備金対象契約に関しては平成8年大蔵省告示第48号に定める方式により、また、標準責任準備金対象外契約に関しては平準純保険料式により計算した保険料積立金及び未経過保険料に対する積立率を記載しています。なお、負債十分性テストの結果を踏まえて積み立てた追加責任準備金を含めています。

#### ● 責任準備金残高(契約年度別)

(単位:百万円、%)

契約年度	責任準備金残高		予定利率
	平成25年度末	平成26年度末	
～1980(昭和55)年度	284,908	272,642	5.00～5.50
1981(昭和56)年度～1985(昭和60)年度	500,364	486,713	5.50～6.00
1986(昭和61)年度～1990(平成 2)年度	1,008,952	996,200	5.50～6.00
1991(平成 3)年度～1995(平成 7)年度	1,255,556	1,255,515	4.50～6.00
1996(平成 8)年度～2000(平成12)年度	808,445	810,250	1.90～4.50
2001(平成13)年度～2005(平成17)年度	1,603,354	1,500,923	1.50～2.35
2006(平成18)年度～2010(平成22)年度	1,586,422	1,687,528	1.50
2011(平成23)年度	671,512	725,817	1.50
2012(平成24)年度	834,354	892,870	1.50
2013(平成25)年度	387,684	432,770	1.00
2014(平成26)年度	—	216,688	1.00
合 計	8,941,556	9,277,922	

(注) 1. 責任準備金残高は、個人保険及び個人年金保険の責任準備金(危険準備金を除く)を記載しています。なお、当社では団体保険・団体年金保険の取り扱いはありません。

2. 予定利率については、各契約年度別の責任準備金に係る主な予定利率を記載しています。

### (5) 特別勘定を設けた最低保証のある保険契約に係る一般勘定における責任準備金、算出方法、計算の基礎となる係数

該当ありません。

### (6) 保険業法第121条第1項第1号の確認(第三分野保険に係るものに限る。)の合理性及び妥当性

#### ● 第三分野における責任準備金の積立の適正性を確保するための考え方

平成10年大蔵省告示第231号及び平成12年金融監督庁・大蔵省告示第22号に基づき、第三分野保険に関する「ストレステスト」及び「負債十分性テスト」を実施し、将来のリスクに備えるために十分な責任準備金を確保することとしています。

なお、当該テストの結果については、「保険引受リスク部会」で確認する態勢となっており、リスク管理態勢の一部に組み込まれています。

#### ● ストレステスト、負債十分性テストにおける保険事故発生率等の設定水準の合理性及び妥当性

原則として保険事故発生率を同じくする契約区分ごとに、過去の保険事故発生率の実績等をもとに一定のストレスを加味して設定した保険事故発生率(保険事故発生率の変動することによる保険金等の増加を99%および97.7%の確率でカバーする水準)を用いて実施しています。

#### ● ストレステスト、負債十分性テストの結果

ストレステストの結果、危険準備金として67百万を積み増しています。また、負債十分性テストの結果、がん保険の一部の契約区分について、責任準備金として200百万円を積み増しています。

なお、平成26年度末において、ストレステストに基づく危険準備金の残高は1,352百万円、負債十分性テストに基づく責任準備金の残高は6,470百万円となっています。

## (7) 契約者配当準備金明細表

平成25年度

(単位:百万円)

区 分	個人保険	個人年金保険	団体保険	団体年金保険	財形保険 財形年金保険	その他の保険	合 計
当期首現在高	43	330	—	—	—	—	373
利息による増加	0	0	—	—	—	—	0
配当金支払による減少	1	36	—	—	—	—	37
当期繰入額	△0	△0	—	—	—	—	△0
当期末現在高	42 (42)	293 (293)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	335 (335)

(注) ( )内はうち積立配当金額です。

平成26年度

(単位:百万円)

区 分	個人保険	個人年金保険	団体保険	団体年金保険	財形保険 財形年金保険	その他の保険	合 計
当期首現在高	42	293	—	—	—	—	335
利息による増加	0	0	—	—	—	—	0
配当金支払による減少	1	35	—	—	—	—	36
当期繰入額	△0	△0	—	—	—	—	△0
当期末現在高	41 (41)	257 (257)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	299 (299)

(注) ( )内はうち積立配当金額です。

## (8) 引当金明細表

(単位:百万円)

区 分		平成25年度期首	平成26年度期首	平成26年度末	
		残高	残高	残高	増減額
貸倒引当金	一般貸倒引当金	14,445	9,665	4,112	△5,552
	個別貸倒引当金	11,536	7,002	4,040	△2,962
	特定海外債権引当勘定	—	—	—	—
退職給付引当金		9,956	9,527	9,350	△176
価格変動準備金		35,361	38,687	42,410	3,723

(注) 計上の理由及び算定方法については、会計方針に記載しているため省略しています(P.89参照)。

## (9) 特定海外債権引当勘定の状況

該当ありません。

## (10) 資本金等明細表

該当ありません。

## (11) 保険料明細表

(単位:百万円)

区 分	平成25年度	平成26年度
個人保険	1,441,750	1,401,140
うち一時払	30	35
うち年払	288,043	243,570
うち半年払	17,918	17,616
うち月払	1,135,758	1,139,917
個人年金保険	211,151	94,078
うち一時払	30	30
うち年払	184,002	67,707
うち半年払	278	275
うち月払	26,839	26,065
団体保険	—	—
団体年金保険	—	—
その他共計	1,652,901	1,495,219

## (12) 保険金明細表

● 件数

(単位:件)

区 分	平成25年度 合 計	平成26年度 合 計	個人保険	個人年金保険	団体保険	団体年金保険	財形保険 財形年金保険	その他の保険
死亡保険金	67,845	69,538	69,538	—	—	—	—	—
災害保険金	180	191	191	—	—	—	—	—
高度障害保険金	351	345	345	—	—	—	—	—
満期保険金	510	560	560	—	—	—	—	—
その他	512	540	540	—	—	—	—	—
合 計	69,398	71,174	71,174	—	—	—	—	—

## ● 金額

(単位:百万円)

区 分	平成25年度 合 計	平成26年度 合 計						
			個人保険	個人年金保険	団体保険	団体年金保険	財形保険 財形年金保険	その他の保険
死亡保険金	70,070	70,240	70,240	—	—	—	—	—
災害保険金	629	612	612	—	—	—	—	—
高度障害保険金	958	1,318	1,318	—	—	—	—	—
満期保険金	1,094	1,103	1,103	—	—	—	—	—
その他	1,002	996	996	—	—	—	—	—
合 計	73,755	74,272	74,272	—	—	—	—	—

## (13) 年金明細表

(単位:件、百万円)

区 分	平成25年度 合 計	平成26年度 合 計						
			個人保険	個人年金保険	団体保険	団体年金保険	財形保険 財形年金保険	その他の保険
件数	50,367	64,044	38,597	25,447	—	—	—	—
金額	11,659	14,912	6,406	8,506	—	—	—	—

## (14) 給付金明細表

## ● 件数

(単位:件)

区 分	平成25年度 合 計	平成26年度 合 計						
			個人保険	個人年金保険	団体保険	団体年金保険	財形保険 財形年金保険	その他の保険
死亡給付金	22,622	23,386	23,050	336	—	—	—	—
入院給付金	818,401	857,161	857,161	—	—	—	—	—
手術給付金	474,284	510,402	510,402	—	—	—	—	—
障害給付金	22	24	24	—	—	—	—	—
生存給付金	41,665	66,553	66,553	—	—	—	—	—
その他	360,737	394,698	394,325	373	—	—	—	—
合 計	1,717,731	1,852,224	1,851,515	709	—	—	—	—

(注) その他には、診断給付金、在宅療養給付金、通院給付金等が含まれています。

## ● 金額

(単位:百万円)

区 分	平成25年度 合 計	平成26年度 合 計						
			個人保険	個人年金保険	団体保険	団体年金保険	財形保険 財形年金保険	その他の保険
死亡給付金	2,906	3,224	2,568	656	—	—	—	—
入院給付金	203,853	205,990	205,990	—	—	—	—	—
手術給付金	60,833	63,965	63,965	—	—	—	—	—
障害給付金	30	41	41	—	—	—	—	—
生存給付金	2,206	3,257	3,257	—	—	—	—	—
その他	110,234	113,618	112,801	816	—	—	—	—
合 計	380,064	390,098	388,625	1,472	—	—	—	—

(注) その他には、診断給付金、在宅療養給付金、通院給付金等が含まれています。

## (15) 解約返戻金明細表

(単位:百万円)

区 分	平成25年度 合 計	平成26年度 合 計						
			個人保険	個人年金保険	団体保険	団体年金保険	財形保険 財形年金保険	その他の保険
解約返戻金	176,798	180,423	173,723	6,699	—	—	—	—

## (16) 減価償却費明細表

平成25年度

(単位:百万円、%)

区分	取得原価	当期償却額	減価償却累計額	当期末残高	償却累計率
有形固定資産	33,985	1,089	24,720	9,264	72.7
建物	29,543	716	21,001	8,541	71.1
リース資産	488	121	284	204	58.1
その他の有形固定資産	3,953	251	3,435	517	86.9
無形固定資産	18,923	644	14,855	4,068	78.5
その他	947	120	771	176	81.4
合計	53,856	1,854	40,346	13,509	74.9

平成26年度

(単位:百万円、%)

区分	取得原価	当期償却額	減価償却累計額	当期末残高	償却累計率
有形固定資産	34,255	1,059	25,392	8,863	74.1
建物	29,717	706	21,659	8,058	72.9
リース資産	648	128	289	359	44.6
その他の有形固定資産	3,889	224	3,443	445	88.5
無形固定資産	19,320	622	15,245	4,075	78.9
その他	1,012	99	871	140	86.1
合計	54,588	1,781	41,508	13,079	76.0

## (17) 事業費明細表

(単位:百万円)

区分	平成25年度	平成26年度
営業活動費	52,034	50,735
営業管理費	42,017	44,626
一般管理費	216,801	212,871
合計	310,853	308,234

(注) 1. 営業活動費、営業管理費は、新契約を締結するに際して必要な経費を含んでいます。具体的には、営業活動費には、主に新契約の募集や診査業務に関する経費が含まれ、営業管理費には、主に広告宣伝や募集機関に関する経費が含まれます。

2. 一般管理費は、保険事務・システム等の契約の維持・管理や資産運用に際して必要な経費、生命保険契約者保護機構への負担金等を含んでいます。なお、平成26年度における生命保険契約者保護機構への負担金額は2,081百万円です。

## (18) 税金明細表

(単位:百万円)

区分	平成25年度	平成26年度
国税	11,837	15,234
消費税	9,166	12,832
地方法人特別税	2,255	2,012
印紙税	388	380
登録免許税	—	—
その他の国税	26	8
地方税	5,438	7,577
地方消費税	2,291	4,742
法人住民税	—	—
法人事業税	2,940	2,629
固定資産税	129	126
不動産取得税	—	—
事業所税	74	77
その他の地方税	1	1
合計	17,276	22,811

## (19) リース取引〈借主側〉(通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を行っている所有権移転外ファイナンス・リース取引)

該当ありません。

## (20) 借入金等残存期間別残高

平成25年度末

(単位:百万円)

区分	1年以下	1年超3年以下	3年超5年以下	5年超7年以下	7年超10年以下	10年超 (期間の定めのないものを含む)	合計
借入金	—	—	—	—	—	—	—
金融商品等受入担保金	—	—	—	—	—	—	—
債券貸借取引受入担保金	292,795	—	—	—	—	—	292,795
合計	292,795	—	—	—	—	—	292,795

平成26年度末

(単位:百万円)

区分	1年以下	1年超3年以下	3年超5年以下	5年超7年以下	7年超10年以下	10年超 (期間の定めのないものを含む)	合計
借入金	—	—	—	—	—	—	—
金融商品等受入担保金	747	—	—	—	—	—	747
債券貸借取引受入担保金	261,144	—	—	—	—	—	261,144
合計	261,891	—	—	—	—	—	261,891

## 4. 資産運用に関する指標等

### (1) 資産運用の概況

#### ① 平成26年度の資産運用の概況

##### ● 資産運用環境

平成26年度の日本経済は、駆け込み需要の反動から4月の消費増税後に大きく減速し、その後の景気回復も緩やかなものにとどまりました。物価は、日本銀行による金融緩和のもと上昇基調が継続したものの、年度後半は原油価格下落の影響を受けて上昇率が低下しました。海外については、米国経済は回復基調が継続しましたが、一方で欧州経済の低迷や中国や新興国経済の減速を受けて、全体としては緩やかな成長にとどまりました。

こうしたなか、10年国債利回りは、年度初0.6%台で始まりましたが、10月末に日本銀行が追加金融緩和を実施した影響で大きく低下し、1月には0.2%台まで低下しました。その後は、金融緩和の影響から低位で推移し、0.40%で年度末を迎えました。

##### ● 資産運用方針

当社は、お客様への将来の保険金や給付金等のお支払いに備え、お客様からお預かりした保険料を安全かつ確実に運用するため、安定した収益が期待できる公社債や貸付金などの長期確定利付資産を運用資産の中核としています。また、保険商品の長期にわたる負債特性に見合ったポートフォリオの構築を通じて、

円の対ドル相場は103円台で始まりましたが、米国と日本の金融政策における方向性の違いから、夏場以降、円安ドル高が進行しました。特に日本銀行による追加金融緩和の実施を受けて、12月には平成19年7月以来となる121円台となり、120.17円で年度末を迎えました。

日経平均株価は14,000円台で始まり、日本銀行による追加金融緩和や企業業績の改善、公的年金の資産配分変更等の国内要因に加えて、世界的な株高傾向を背景に、3月には平成12年4月以来となる19,000円台まで上昇し、19,206円で年度末を迎えました。

長期安定的な投資収益の確保と財務の健全性の維持に努めています。さらに、投資に係るリスク、すなわち信用リスク、市場関連リスク、流動性リスク等を把握し、収益性とのバランスを十分に検討したうえで、経済合理性に基づく投資を行っています。



## ② ポートフォリオの推移

### ● 資産の構成

(単位:百万円、%)

区 分	平成25年度末		平成26年度末	
	金額	占率	金額	占率
現預金・コールローン	23,066	0.2	20,582	0.2
買現先勘定	—	—	—	—
債券貸借取引支払保証金	—	—	—	—
買入金銭債権	28,790	0.3	28,059	0.3
商品有価証券	—	—	—	—
金銭の信託	—	—	—	—
有価証券	8,724,509	86.6	9,534,817	88.8
公社債	4,359,521	43.3	4,639,823	43.2
株式	1,763	0.0	2,035	0.0
外国証券	4,363,224	43.3	4,892,958	45.5
公社債	4,309,561	42.8	4,719,157	43.9
株式等	53,663	0.5	173,800	1.6
その他の証券	—	—	—	—
貸付金	1,097,216	10.9	1,026,738	9.6
保険約款貸付	15,122	0.2	16,747	0.2
一般貸付	1,082,094	10.7	1,009,990	9.4
不動産	13,515	0.1	13,031	0.1
繰延税金資産	83,921	0.8	—	—
その他	124,597	1.2	127,757	1.2
貸倒引当金	△16,667	△0.2	△8,152	△0.1
合 計	10,078,949	100.0	10,742,835	100.0
うち外貨建資産	2,090,994	20.7	2,688,985	25.0

### ● 資産の増減

(単位:百万円)

区 分	平成25年度	平成26年度
現預金・コールローン	△77,212	△2,484
買現先勘定	—	—
債券貸借取引支払保証金	—	—
買入金銭債権	△2,352	△730
商品有価証券	—	—
金銭の信託	—	—
有価証券	1,144,863	810,307
公社債	801,373	280,301
株式	△15	272
外国証券	343,505	529,733
公社債	340,347	409,596
株式等	3,157	120,137
その他の証券	—	—
貸付金	△100,461	△70,478
保険約款貸付	1,825	1,625
一般貸付	△102,287	△72,103
不動産	△437	△483
繰延税金資産	3,477	△83,921
その他	△78,491	3,160
貸倒引当金	9,314	8,515
合 計	898,699	663,885
うち外貨建資産	492,202	597,990

## (2) 運用利回り

(単位:%)

区 分	平成25年度	平成26年度
現預金・コールローン	0.28	4.55
買現先勘定	—	—
債券貸借取引支払保証金	—	—
買入金銭債権	2.71	2.68
商品有価証券	—	—
金銭の信託	—	—
有価証券	2.68	2.72
うち公社債	1.85	1.67
うち株式	3.16	2.38
うち外国証券	3.46	3.82
貸付金	3.61	4.85
うち一般貸付	3.62	4.88
不動産	—	—
一般勘定計	2.68	2.87

(注) 利回り計算式の分母は帳簿価額ベースの日々平均残高、分子は経常損益中、資産運用収益－資産運用費用として算出した利回りです。

## (3) 主要資産の平均残高

(単位:百万円)

区 分	平成25年度	平成26年度
現預金・コールローン	29,925	15,507
買現先勘定	—	—
債券貸借取引支払保証金	—	—
買入金銭債権	28,113	26,469
商品有価証券	—	—
金銭の信託	—	—
有価証券	8,142,247	9,068,127
うち公社債	3,945,922	4,658,221
うち株式	1,471	1,462
うち外国証券	4,194,852	4,408,443
貸付金	1,128,835	1,059,019
うち一般貸付	1,114,752	1,043,170
不動産	13,264	12,833
一般勘定計	9,566,151	10,404,489
うち海外投融資	5,206,211	5,353,073

## (4) 資産運用収益明細表

(単位:百万円)

区 分	平成25年度	平成26年度
利息及び配当金等収入	269,199	288,845
商品有価証券運用益	—	—
金銭の信託運用益	—	—
売買目的有価証券運用益	—	—
有価証券売却益	12,776	7,820
有価証券償還益	674	1,791
金融派生商品収益	—	—
為替差益	138	7,406
貸倒引当金戻入額	—	8,376
その他運用収益	159	746
合 計	282,948	314,987

## (5) 資産運用費用明細表

(単位:百万円)

区 分	平成25年度	平成26年度
支払利息	136	92
商品有価証券運用損	—	—
金銭の信託運用損	—	—
売買目的有価証券運用損	—	—
有価証券売却損	9,402	2,669
有価証券評価損	8,130	1,085
有価証券償還損	67	72
金融派生商品費用	6,439	10,167
為替差損	—	—
貸倒引当金繰入額	1,733	—
貸付金償却	150	2,000
その他運用費用	228	338
合 計	26,287	16,425

## (6) 利息及び配当金等収入明細表

(単位:百万円)

区 分	平成25年度	平成26年度
預貯金利息	9	2
有価証券利息・配当金	226,669	244,923
公社債利息	68,769	77,890
株式配当金	38	38
外国証券利息配当金	157,861	166,994
貸付金利息	41,769	43,190
不動産賃貸料	—	—
その他共計	269,199	288,845

## (7) 有価証券売却益明細表

(単位:百万円)

区 分	平成25年度	平成26年度
国債等債券	6,175	136
株式等	16	—
外国証券	6,584	7,684
その他共計	12,776	7,820

## (8) 有価証券売却損明細表

(単位:百万円)

区 分	平成25年度	平成26年度
国債等債券	2,313	0
株式等	—	—
外国証券	7,088	2,668
その他共計	9,402	2,669

## (9) 有価証券評価損明細表

(単位:百万円)

区 分	平成25年度	平成26年度
国債等債券	—	—
株式等	7	3
外国証券	8,122	1,082
その他共計	8,130	1,085

## (10) 商品有価証券明細表

該当ありません。

## (11) 商品有価証券売買高

該当ありません。

## (12) 有価証券明細表

(単位:百万円、%)

区 分	平成25年度末		平成26年度末	
	金額	占率	金額	占率
国債	4,145,273	47.5	4,423,777	46.4
地方債	42,049	0.5	52,206	0.5
社債	172,198	2.0	163,839	1.7
うち公社・公団債	1,328	0.0	1,324	0.0
株式	1,763	0.0	2,035	0.0
外国証券	4,363,224	50.0	4,892,958	51.3
公社債	4,309,561	49.4	4,719,157	49.5
株式等	53,663	0.6	173,800	1.8
その他の証券	—	—	—	—
合 計	8,724,509	100.0	9,534,817	100.0

## (13) 有価証券残存期間別残高

平成25年度末

(単位:百万円)

区 分	1年以下	1年超3年以下	3年超5年以下	5年超7年以下	7年超10年以下	10年超 (期間の定めのないものを含む)	合 計
有価証券	117,097	156,905	253,266	314,121	948,365	6,934,752	8,724,509
国債	33,951	22,303	46,746	29,572	36,898	3,975,801	4,145,273
地方債	—	—	—	—	—	42,049	42,049
社債	20,685	11,152	22,537	—	2,372	115,449	172,198
株式	—	—	—	—	—	1,763	1,763
外国証券	62,460	123,449	183,981	284,549	909,094	2,799,689	4,363,224
公社債	60,916	123,449	183,981	284,114	909,094	2,748,003	4,309,561
株式等	1,543	—	—	434	—	51,685	53,663
その他の証券	—	—	—	—	—	—	—
買入金銭債権	—	—	—	—	—	21,434	21,434
譲渡性預金	—	—	—	—	—	—	—
その他	—	—	—	—	—	—	—
合 計	117,097	156,905	253,266	314,121	948,365	6,956,187	8,745,944

(※)「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号)に基づく有価証券として取り扱うものを含む。

平成26年度末

(単位:百万円)

区 分	1年以下	1年超3年以下	3年超5年以下	5年超7年以下	7年超10年以下	10年超 (期間の定めのないものを含む)	合 計
有価証券	111,529	149,282	291,367	425,027	1,084,005	7,473,603	9,534,817
国債	1,120	41,729	22,391	24,090	52,602	4,281,842	4,423,777
地方債	—	—	—	—	—	52,206	52,206
社債	10,498	4,439	18,322	1,680	468	128,430	163,839
株式	—	—	—	—	—	2,035	2,035
外国証券	99,910	103,113	250,653	399,256	1,030,934	3,009,088	4,892,958
公社債	78,497	103,113	250,653	398,532	1,030,934	2,857,425	4,719,157
株式等	21,413	—	—	724	—	151,663	173,800
その他の証券	—	—	—	—	—	—	—
買入金銭債権	—	—	—	—	—	21,437	21,437
譲渡性預金	—	—	—	—	—	—	—
その他	—	—	—	—	—	—	—
合 計	111,529	149,282	291,367	425,027	1,084,005	7,495,041	9,556,255

(※)「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号)に基づく有価証券として取り扱うものを含む。

## (14) 保有公社債の期末残高利回り

(単位:%)

区 分	平成25年度	平成26年度
公社債	1.74	1.67
外国公社債	3.76	3.85

(注) 上記利回りは、分母を帳簿価額ベースの日々平均残高、分子を利息及び配当金等収入として算出しています。

### (15) 業種別株式保有明細表

(単位:百万円、%)

区 分	平成25年度末		平成26年度末		
	金額	占率	金額	占率	
水産・農林業	—	—	—	—	
鉱業	—	—	—	—	
建設業	—	—	—	—	
製造業					
	食料品	—	—	—	
	繊維製品	—	—	—	
	パルプ・紙	—	—	—	
	化学	—	—	—	
	医薬品	—	—	—	
	石油・石炭製品	—	—	—	
	ゴム製品	—	—	—	
	ガラス・土石製品	—	—	—	
	鉄鋼	—	—	—	
	非鉄金属	—	—	—	
	金属製品	—	—	—	
	機械	—	—	—	
	電気機器	—	—	—	
	輸送用機器	—	—	—	
	精密機器	—	—	—	
	その他製品	8	0.5	13	0.6
電気・ガス業	—	—	—	—	
運輸・情報通信業					
	陸運業	80	4.6	91	4.5
	海運業	—	—	—	—
	空運業	—	—	—	—
	倉庫・運輸関連業	—	—	—	—
	情報・通信業	—	—	—	—
商業					
	卸売業	—	—	—	—
	小売業	—	—	—	—
金融・保険業					
	銀行業	1,286	73.0	1,533	75.3
	証券・商品先物取引業	1	0.1	2	0.1
	保険業	262	14.9	269	13.2
	その他金融業	—	—	—	—
不動産業	10	0.6	10	0.5	
サービス業	112	6.4	114	5.6	
合 計	1,763	100.0	2,035	100.0	

(注) 業種区分は、証券コード協議会の業種別分類項目に準拠しています。

### (16) 貸付金明細表

(単位:百万円)

区 分	平成25年度末	平成26年度末
保険約款貸付	15,122	16,747
契約者貸付	11,030	12,418
保険料振替貸付	4,092	4,329
一般貸付	1,082,094	1,009,990
(うち非居住者貸付)	(982,989)	(910,964)
企業貸付	828,040	753,018
(うち国内企業向け)	(98,524)	(98,528)
国・国際機関・政府関係機関貸付	85,474	85,474
公共団体・公企業貸付	168,000	171,000
住宅ローン	579	498
消費者ローン	—	—
その他	—	—
合 計	1,097,216	1,026,738

## (17) 貸付金残存期間別残高

平成25年度末

(単位:百万円)

区 分	1年以下	1年超3年以下	3年超5年以下	5年超7年以下	7年超10年以下	10年超 (期間の定めのないものを含む)	合 計
変動金利	0	5	11	3	—	—	20
固定金利	0	20,507	32	79,057	5,063	977,411	1,082,073
一般貸付計	1	20,512	43	79,060	5,063	977,411	1,082,094

平成26年度末

(単位:百万円)

区 分	1年以下	1年超3年以下	3年超5年以下	5年超7年以下	7年超10年以下	10年超 (期間の定めのないものを含む)	合 計
変動金利	—	7	19	—	—	—	26
固定金利	33,500	5,010	50,030	29,044	5,065	887,312	1,009,963
一般貸付計	33,500	5,017	50,049	29,044	5,065	887,312	1,009,990

## (18) 国内企業向け貸付金企業規模別内訳

(単位:件、百万円、%)

区 分	平成25年度末		平成26年度末	
	貸付先数	占率	貸付先数	占率
大企業	貸付先数	5	5	29.4
	金額	58,500	58,500	59.4
中堅企業	貸付先数	—	—	—
	金額	—	—	—
中小企業	貸付先数	14	12	70.6
	金額	40,024	40,028	40.6
国内企業向け貸付計	貸付先数	19	17	100.0
	金額	98,524	98,528	100.0

(注) 1. 業種の区分は以下のとおりです。

業 種	① 右の②～④を除く全業種		② 小売業、飲食業		③ サービス業		④ 卸売業	
大企業	従業員	資本金10億円以上	従業員	資本金10億円以上	従業員	資本金10億円以上	従業員	資本金10億円以上
中堅企業	300名超	資本金3億円超 10億円未満	50名超	資本金5千万円超 10億円未満	100名超	資本金5千万円超 10億円未満	100名超	資本金1億円超 10億円未満
中小企業	かつ	資本金3億円以下 又は常用する従業員300人以下	かつ	資本金5千万円以下 又は常用する従業員50人以下	かつ	資本金5千万円以下 又は常用する従業員100人以下	かつ	資本金1億円以下 又は常用する従業員100人以下

2. 貸付先数とは、各貸付先を名寄せした結果の債務者数をいい、貸付件数ではありません。

3. 個人企業及び個人事業主については、中小企業に区分されています。

## (19) 貸付金業種別内訳

(単位:百万円,%)

区 分	平成25年度末		平成26年度末		
	金額	占率	金額	占率	
国内向け	製造業	10,000	0.9	10,000	1.0
	食料	—	—	—	—
	繊維	—	—	—	—
	木材・木製品	—	—	—	—
	パルプ・紙	—	—	—	—
	印刷	—	—	—	—
	化学	—	—	—	—
	石油・石炭	—	—	—	—
	窯業・土石	—	—	—	—
	鉄鋼	—	—	—	—
	非鉄金属	—	—	—	—
	金属製品	—	—	—	—
	はん用・生産用・業務用機械	—	—	—	—
	電気機械	—	—	—	—
	輸送用機械	10,000	0.9	10,000	1.0
	その他の製造業	—	—	—	—
	農業・林業	—	—	—	—
	漁業	—	—	—	—
	鉱業、採石業、砂利採取業	—	—	—	—
	建設業	—	—	—	—
	電気・ガス・熱供給・水道業	—	—	—	—
	情報通信業	—	—	—	—
	運輸業、郵便業	20,000	1.8	20,000	2.0
	卸売業	—	—	—	—
	小売業	—	—	—	—
	金融業・保険業	53,524	4.9	53,528	5.3
	不動産業	15,000	1.4	15,000	1.5
	物品賃貸業	—	—	—	—
	学術研究、専門・技術サービス業	—	—	—	—
	宿泊業	—	—	—	—
	飲食業	—	—	—	—
	生活関連サービス業、娯楽業	—	—	—	—
	教育、学習支援業	—	—	—	—
医療・福祉	—	—	—	—	
その他のサービス	—	—	—	—	
地方公共団体	—	—	—	—	
個人(住宅・消費・納税資金等)	579	0.1	498	0.0	
合 計	99,104	9.2	99,026	9.8	
海外向け	政府等	85,474	7.9	85,474	8.5
	公共団体・公企業貸付	168,000	15.5	163,000	16.1
	金融機関	572,515	52.9	505,490	50.0
	商工業(等)	157,000	14.5	157,000	15.5
	合 計	982,989	90.8	910,964	90.2
一般貸付計	1,082,094	100.0	1,009,990	100.0	

(注) 国内向けの区分は、日本銀行の貸出先別貸出金(業種別、設備資金新規貸出)の業種分類に準拠しています。

## (20) 貸付金使途別内訳

(単位:百万円,%)

区 分	平成25年度末		平成26年度末	
	金額	占率	金額	占率
設備資金	26,593	2.5	26,519	2.6
運転資金	1,055,500	97.5	983,470	97.4

## (21) 貸付金地域別内訳

(単位:百万円、%)

区 分	平成25年度末		平成26年度末	
	金額	占率	金額	占率
北海道	11	0.0	8	0.0
東北	3	0.0	1	0.0
関東	88,503	89.8	88,510	89.8
中部	10,001	10.2	10,000	10.1
近畿	1	0.0	0	0.0
中国	—	—	—	—
四国	3	0.0	2	0.0
九州	—	—	4	0.0
合 計	98,524	100.0	98,528	100.0

(注) 1. 個人ローン、非居住者貸付、保険約款貸付等は含んでいません。  
2. 地域区分は、貸付先の本社所在地によります。

## (22) 貸付金担保別内訳

(単位:百万円、%)

区 分	平成25年度末		平成26年度末	
	金額	占率	金額	占率
担保貸付	321,097	29.7	250,989	24.9
有価証券担保貸付	320,517	29.6	250,491	24.8
不動産・動産・財団担保貸付	579	0.1	498	0.0
指名債権担保貸付	—	—	—	—
保証貸付	152,016	14.0	150,024	14.9
信用貸付	608,979	56.3	608,976	60.3
その他	—	—	—	—
一般貸付計	1,082,094	100.0	1,009,990	100.0
うち劣後特約付貸付	313,201	28.9	311,201	30.8

## (23) 有形固定資産明細表

### ● 有形固定資産の明細

#### 平成25年度

(単位:百万円、%)

区 分	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	減価償却累計額	償却累計率
土地	4,978	—	4	—	4,973	—	—
建物	8,974	316	33	716	8,541	21,001	71.1
リース資産	289	37	—	121	204	284	58.1
建設仮勘定	—	—	—	—	—	—	—
その他の有形固定資産	724	170	6	251	638	3,435	84.3
合 計	14,967	524	44	1,089	14,358	24,720	—
うち賃貸等不動産	—	—	—	—	—	—	—

#### 平成26年度

(単位:百万円、%)

区 分	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	減価償却累計額	償却累計率
土地	4,973	—	—	—	4,973	—	—
建物	8,541	230	7	706	8,058	21,659	72.9
リース資産	204	283	—	128	359	289	44.6
建設仮勘定	—	—	—	—	—	—	—
その他の有形固定資産	638	162	10	224	566	3,443	85.9
合 計	14,358	676	18	1,059	13,957	25,392	—
うち賃貸等不動産	—	—	—	—	—	—	—

### ● 不動産残高及び賃貸用ビル保有数

(単位:百万円)

区 分	平成25年度末	平成26年度末
不動産残高	13,515	13,031
営業用	13,515	13,031
賃貸用	—	—
賃貸用ビル保有数	— 棟	— 棟

## (24) 固定資産等処分益明細表

該当ありません。

## (25) 固定資産等処分損明細表

(単位:百万円)

区 分	平成25年度	平成26年度
有形固定資産	42	18
土地	4	—
建物	32	7
リース資産	—	—
その他	6	10
無形固定資産	3	43
その他	0	—
合 計	46	61
うち賃貸等不動産	—	—

## (26) 賃貸用不動産等減価償却費明細表

該当ありません。

## (27) 海外投融資の状況

### ①資産別明細

#### イ. 外貨建資産

(単位:百万円、%)

区 分	平成25年度末		平成26年度末	
	金額	占率	金額	占率
公社債	2,005,130	37.2	2,477,826	42.3
株式	434	0.0	724	0.0
現預金・その他	85,429	1.6	210,433	3.6
小 計	2,090,994	38.8	2,688,985	45.9

#### ロ. 円貨額が確定した外貨建資産

(単位:百万円、%)

区 分	平成25年度末		平成26年度末	
	金額	占率	金額	占率
公社債	—	—	—	—
現預金・その他	—	—	—	—
小 計	—	—	—	—

#### ハ. 円貨建資産

(単位:百万円、%)

区 分	平成25年度末		平成26年度末	
	金額	占率	金額	占率
非居住者貸付	982,989	18.2	910,964	15.6
公社債(円建外債)・その他	2,322,076	43.0	2,258,196	38.5
小 計	3,305,065	61.2	3,169,160	54.1

#### ニ. 合計

(単位:百万円、%)

区 分	平成25年度末		平成26年度末	
	金額	占率	金額	占率
海外投融資	5,396,060	100.0	5,858,146	100.0

(注)「円貨額が確定した外貨建資産」は、為替予約が付されていることにより決済時の円貨額が確定し、当該円貨額を資産の貸借対照表価額としているものです。



②地域別構成

平成25年度末

(単位:百万円、%)

区 分	外国証券		公社債		株式等		非居住者貸付	
	金額	占率	金額	占率	金額	占率	金額	占率
北米	2,107,358	48.3	2,053,694	47.7	53,663	100.0	32,055	3.3
ヨーロッパ	1,162,690	26.6	1,162,690	27.0	—	—	480,998	48.9
オセアニア	244,962	5.6	244,962	5.7	—	—	—	—
アジア	232,702	5.3	232,702	5.4	—	—	96,000	9.8
中南米	426,592	9.8	426,592	9.9	—	—	317,462	32.3
中東	69,687	1.6	69,687	1.6	—	—	35,000	3.6
アフリカ	87,818	2.0	87,818	2.0	—	—	15,000	1.5
国際機関	31,411	0.7	31,411	0.7	—	—	6,474	0.7
合 計	4,363,224	100.0	4,309,561	100.0	53,663	100.0	982,989	100.0

平成26年度末

(単位:百万円、%)

区 分	外国証券		公社債		株式等		非居住者貸付	
	金額	占率	金額	占率	金額	占率	金額	占率
北米	2,636,782	53.9	2,462,981	52.2	173,800	100.0	30,055	3.3
ヨーロッパ	1,140,791	23.3	1,140,791	24.2	—	—	480,998	52.8
オセアニア	261,530	5.3	261,530	5.5	—	—	—	—
アジア	236,912	4.8	236,912	5.0	—	—	96,000	10.5
中南米	418,677	8.6	418,677	8.9	—	—	247,436	27.2
中東	73,051	1.5	73,051	1.5	—	—	35,000	3.8
アフリカ	92,089	1.9	92,089	2.0	—	—	15,000	1.6
国際機関	33,124	0.7	33,124	0.7	—	—	6,474	0.7
合 計	4,892,958	100.0	4,719,157	100.0	173,800	100.0	910,964	100.0

③外貨建資産の通貨別構成

(単位:百万円、%)

区 分	平成25年度末		平成26年度末	
	金額	占率	金額	占率
米ドル	2,090,994	100.0	2,688,985	100.0
ユーロ	—	—	—	—
カナダドル	—	—	—	—
オーストラリアドル	—	—	—	—
その他	—	—	—	—
合 計	2,090,994	100.0	2,688,985	100.0

## (28) 海外投融資利回り

(単位:%)

平成25年度	平成26年度
3.48	4.03

## (29) 公共関係投融資の概況(新規引受額、貸出額)

(単位:百万円)

区分	平成25年度	平成26年度
公共債	国債	2,073,586
	地方債	—
	公社・公団債	—
	小計	2,073,586
貸付	政府関係機関	—
	公共団体・公企業	—
	小計	—
合計	2,073,586	1,123,839

## (30) 各種ローン金利

当社における一般貸付の金利は、市場金利実勢を反映して決定されています。

## (31) その他の資産明細表

### 平成25年度

(単位:百万円)

資産の種類	取得原価	当期増加額	当期減少額	減価償却累計額	当期末残高
入会保証金等	128	14	4	—	128
その他	1,114	38	121	771	342
合計	1,242	52	126	771	471

### 平成26年度

(単位:百万円)

資産の種類	取得原価	当期増加額	当期減少額	減価償却累計額	当期末残高
入会保証金等	143	16	1	—	143
その他	1,172	64	105	871	301
合計	1,316	80	106	871	445

## 5. 有価証券等の時価情報(一般勘定)

P.100~104をご参照ください。(特別勘定はありません)

## 特別勘定に関する指標等

該当ありません。

## 保険会社及びその子会社等の状況

該当ありません。

## ご契約者保護に関する制度（生命保険契約者保護機構）について

当社は、「生命保険契約者保護機構」（以下、保護機構）に加入しています。保護機構の概要は、以下のとおりです。

保護機構は、保険業法に基づき設立された法人であり、保護機構の会員である生命保険会社が破綻に陥った場合、生命保険に係る保険契約者等のための相互援助制度として、当該破綻保険会社に係る保険契約の移転等における資金援助、承継保険会社の経営管理、保険契約の引受け、補償対象保険金の支払いに係る資金援助及び保険金請求権等の買取りを行う等により、保険契約者等の保護を図り、生命保険業に対する信頼性を維持することを目的としています。

保険契約上、年齢や健康状態によっては契約していた破綻保険会社と同様の条件で新たに加入することが困難になることもあるため、保険会社が破綻した場合には、保護機構が保険契約の移転等に際して資金援助等の支援を行い、加入している保険契約の継続を図ることにしています。

保険契約の移転等における補償対象契約は、運用実績連動型保険契約の特定特別勘定（※1）に係る部分を除いた国内における元受保険契約で、その補償限度は、高予定利率契約（※2）を除き、責任準備金等（※3）の90%とすることが、保険業法等で定められています（保険金・年金等の90%が補償されるものではありません（※4））。

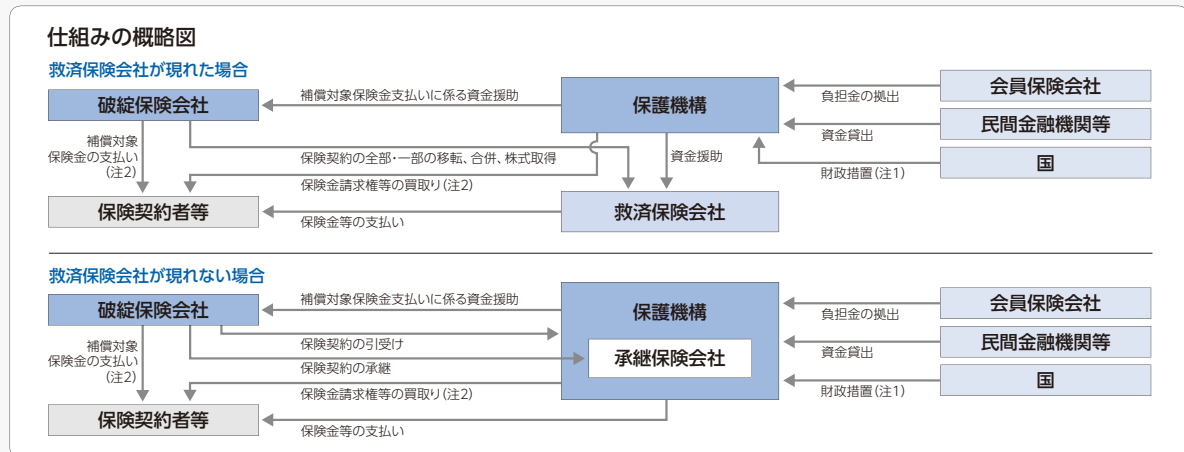
なお、保険契約の移転等の際には、責任準備金等の削減に加え、保険契約を引き続き適正・安全に維持するために、

契約条件の算定基礎となる基礎率（予定利率、予定死亡率、予定事業費率等）の変更が行われる可能性があり、これに伴い、保険金額・年金額等が減少することがあります。合わせて、早期解約控除制度（保険集団を維持し、保険契約の継続を図るために、通常の解約控除とは別に、一定期間特別な解約控除を行う制度）が設けられる可能性もあります。

- （※1）特別勘定を設置しなければならない保険契約のうち最低保証（最低死亡保険金保証、最低年金原資保証等）のない保険契約に係る特別勘定を指します。更生手続においては、当該部分についての責任準備金を削減しない更生計画を作成することが可能です（実際に削減しないか否かは、個別の更生手続のなかで確定することとなります）。
- （※2）破綻時に過去5年間で常に予定利率が基準利率（\*1）を超えていた契約を指します（\*2）。当該契約については、責任準備金等の補償限度が以下のとおりとなります。ただし、破綻会社に対して資金援助がなかった場合の弁済率が下限となります。  
高予定利率契約の補償率  
= 90% - [(過去5年間における各年の予定利率 - 基準利率)の総和 ÷ 2]  
（\*1）基準利率は、生保各社の過去5年間の平均運用利回りを基準に、金融庁長官及び財務大臣が定めることとなっています。現在の基準利率については、保護機構のホームページで確認できます。  
（\*2）一つの保険契約において、主契約・特約の予定利率が異なる場合には、主契約・特約を予定利率が異なるごとに独立した保険契約とみなして、高予定利率契約に該当するか否かを判断することになります。また、企業保険等において被保険者が保険料を拠出している場合で被保険者ごとに予定利率が異なる場合には、被保険者ごとに独立した保険契約が締結されているものとみなして高予定利率契約に該当するか否かの判断することになります。ただし、確定拠出年金保険契約については、被保険者が保険料を拠出しているか否かにかかわらず、被保険者ごとに高予定利率契約に該当するか否かを判断することになります。
- （※3）責任準備金等とは、将来の保険金・年金・給付金の支払いに備え、保険料や運用収益などを財源として積み立てている準備金等をいいます。
- （※4）個人変額年金保険に付されている年金原資保証額等についても、その90%が補償されるものではありません。

### 負担金の拠出

会員である生命保険会社は、保護機構の定款に定める基準により、毎年、負担金を納付しています。平成26年度の全会員保険会社の負担金額は330億円であり、うち当社は約20億円を拠出しています。



- （注）1. 上記の「財政措置」は、平成29年（2017年）3月末までに生命保険会社が破綻した場合に対応する措置で、会員保険会社の拠出による負担金だけで資金援助等の対応ができない場合に、国会審議を経て補助金が認められた際に行われるものです。
2. 破綻処理中の保険事故に基づく補償対象契約の保険金等の支払い、保護機構が補償対象契約に係る保険金請求権等を買取り取ることを指します。この場合における支払率及び買取率については、責任準備金等の補償限度と同率となります（高予定利率契約については、（※2）に記載の率となります）。
- 補償対象契約の範囲・補償対象契約の補償限度等を含め、本掲載内容はすべて現在の法令に基づいたものであり、今後、法令の改正により変更される可能性があります。

### 生命保険会社が破綻した場合の保険契約の取り扱いに関するお問い合わせ先

生命保険契約者保護機構 電話：03-3286-2820

ホームページアドレス <http://www.seihohogo.jp/>

受付時間 月～金曜日（祝日・年末年始を除く）9:00～12:00、13:00～17:00

# 生命保険協会統一開示項目索引

本ディスクロージャー誌は、一般社団法人生命保険協会が定める開示基準に基づいて作成しています。  
当該開示基準に定める開示項目は、以下のページに掲載しています。

## I. 保険会社の概況及び組織

1. 沿革	18～19
2. 経営の組織	74～75
3. 店舗網一覧	76～77
4. 資本金の推移	} 外国生命保険会社の日本支店であるため、該当ありません。(保険業法施行規則143条の2第1項第1号のロにおいて規定されている株式等に関する事項については、P.82をご参照ください)
5. 株式の総数	
6. 株式の状況	
7. 主要株主の状況	
8. 取締役及び監査役(役職名・氏名)	72～73
9. 会計参与の氏名又は名称	該当ありません
10. 会計監査人の氏名又は名称	該当ありません
11. 従業員の在籍・採用状況	74
12. 平均給与(内勤職員)	74
13. 平均給与(営業職員)	(該当ありません)74

## II. 保険会社の主要な業務の内容

1. 主要な業務の内容	75
2. 経営方針	4～5

## III. 直近事業年度における事業の概況

1. 直近事業年度における事業の概況	84
2. 契約者懇談会開催の概況	36
3. 相談・苦情処理態勢、相談(照会、苦情)の件数、及び苦情からの改善事例	34～37
4. 契約者に対する情報提供の実態	43～46、48
5. 商品に対する情報及びデメリット情報提供の方法	44
6. 営業職員・代理店教育・研修の概略	54～55
7. 新規開発商品の状況	56～57
8. 保険商品一覧	58
9. 情報システムに関する状況	54
10. 公共福祉活動、厚生事業団活動の概況	14～17

## IV. 直近5事業年度における

主要な業務の状況を示す指標	85
---------------	----

## V. 財産の状況

1. 貸借対照表	86
2. 損益計算書	87
3. キャッシュ・フロー計算書	88
4. 株主資本等変動計算書	(該当ありません)98
5. 債務者区分による債権の状況	98 (破産更生債権及びこれらに準ずる債権)(危険債権)(要管理債権)(正常債権)
6. リスク管理債権の状況	98 (破綻先債権)(延滞債権)(3ヵ月以上延滞債権)(貸付条件緩和債権)

7. 元本補填契約のある信託に係る貸出金の状況	(該当ありません)98
8. 保険金等の支払能力の充実の状況(ソルベンシー・マージン比率)	99
9. 有価証券等の時価情報(会社計)	
(有価証券)	100～102
(金銭の信託)	(該当ありません)102
(デリバティブ取引)	103～104
10. 経常利益等の明細(基礎利益)	105
11. 計算書類等について会社法による会計監査人の監査を受けている場合にはその旨	98
12. 貸借対照表、損益計算書及び株主資本等変動計算書について金融商品取引法に基づき公認会計士又は監査法人の監査証明を受けている場合にはその旨	該当ありません
13. 代表者が財務諸表の適正性、及び財務諸表作成に係る内部監査の有効性を確認している旨	106
14. 事業年度の末日において、保険会社が将来にわたって事業活動を継続するとの前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況その他保険会社の経営に重要な影響を及ぼす事象が存在する場合には、その旨及びその内容、当該重要事象等についての分析及び検討内容並びに当該重要事象等を解消し、又は改善するための対応策の具体的内容	(該当ありません)106

## VI. 業務の状況を示す指標等

1. 主要な業務の状況を示す指標等	
(1) 決算業績の概況	22～32
(2) 保有契約高及び新契約高	107
(3) 年換算保険料	107
(4) 保障機能別保有契約高	108～109
(5) 個人保険及び個人年金保険契約種類別保有契約高	109
(6) 異動状況の推移	112～113
(7) 契約者配当の状況	114～115
2. 保険契約に関する指標等	
(1) 保有契約増加率	116
(2) 新契約平均保険金及び保有契約平均保険金(個人保険)	116
(3) 新契約率(対年度始)	116
(4) 解約失効率(対年度始)	116
(5) 個人保険新契約平均保険料(月払契約)	116
(6) 死亡率(個人保険主契約)	116
(7) 特約発生率(個人保険)	116
(8) 事業費率(対収入保険料)	116
(9) 保険契約を再保険に付した場合における、再保険を引き受けた主要な保険会社等の数	116
(10) 保険契約を再保険に付した場合における、再保険を引き受けた保険会社等のうち、支払再保険料の額が大きい上位5社に対する支払再保険料の割合	116
(11) 保険契約を再保険に付した場合における、再保険を引き受けた主要な保険会社等の格付機関による格付に基づく区分ごとの支払再保険料の割合	117

(12)未収受再保険金の額 .....	117	(15)業種別株式保有明細表 .....	126
(13)第三分野保険の給付事由又は保険種類の区分ごとの、発生保険金額の経過保険料に対する割合 .....	117	(16)貸付金明細表 .....	126
3. 経理に関する指標等		(17)貸付金残存期間別残高 .....	127
(1)支払備金明細表 .....	117	(18)国内企業向け貸付金企業規模別内訳 .....	127
(2)責任準備金明細表 .....	117	(19)貸付金業種別内訳 .....	128
(3)責任準備金残高の内訳 .....	118	(20)貸付金使途別内訳 .....	128
(4)個人保険及び個人年金保険の責任準備金の積立方式、積立率、残高(契約年度別) .....	118	(21)貸付金地域別内訳 .....	129
(5)特別勘定を設けた最低保証のある保険契約に係る一般勘定における責任準備金、算出方法、計算の基礎となる係数 .....	(該当ありません) 118	(22)貸付金担保別内訳 .....	129
(6)契約者配当準備金明細表 .....	119	(23)有形固定資産明細表 (有形固定資産の明細) .....	129
(7)引当金明細表 .....	119	(不動産残高及び賃貸用ビル保有数) .....	129
(8)特定海外債権引当勘定の状況 (特定海外債権引当勘定) .....	(該当ありません) 119	(24)固定資産等処分益明細表 .....	(該当ありません) 129
(対象債権額国別残高) .....	(該当ありません) 119	(25)固定資産等処分損明細表 .....	130
(9)資本金等明細表 .....	(該当ありません) 119	(26)賃貸用不動産等減価償却費明細表 .....	(該当ありません) 130
(10)保険料明細表 .....	119	(27)海外投融資の状況 (資産別明細) .....	130
(11)保険金明細表 .....	119~120	(地域別構成) .....	131
(12)年金明細表 .....	120	(外貨建資産の通貨別構成) .....	131
(13)給付金明細表 .....	120	(28)海外投融資利回り .....	132
(14)解約返戻金明細表 .....	120	(29)公共関係投融資の概況(新規引受額、貸出額) .....	132
(15)減価償却費明細表 .....	121	(30)各種ローン金利 .....	132
(16)事業費明細表 .....	121	(31)その他の資産明細表 .....	132
(17)税金明細表 .....	121	5. 有価証券等の時価情報(一般勘定)	
(18)リース取引 .....	(該当ありません) 121	(有価証券) .....	100~102
(19)借入金等残存期間別残高 .....	121	(金銭の信託) .....	(該当ありません) 102
4. 資産運用に関する指標等		(デリバティブ取引) .....	103~104
(1)資産運用の概況 (年度の資産の運用概況) .....	27, 122	<b>Ⅶ. 保険会社の運営</b>	
(ポートフォリオの推移(資産の構成及び資産の増減)) .....	123	1. リスク管理の体制 .....	64~67
(2)運用利回り .....	124	2. 法令遵守の体制 .....	61~63
(3)主要資産の平均残高 .....	124	3. 法第二百一十一条第一項第一号の確認(第三分野保険に係るものに限る。)の合理性及び妥当性 .....	118
(4)資産運用収益明細表 .....	124	4. 指定生命保険業務紛争解決機関が存在する場合、当該生命保険会社が法第五十五条の二第一項第一号に定める生命保険業務に係る手続実施基本契約を締結する措置を講ずる当該手続実施基本契約の相手方である指定生命保険業務紛争解決機関の商号又は名称 指定生命保険業務紛争解決機関が存在しない場合、当該生命保険会社の法第五十五条の二第一項第二号に定める生命保険業務に関する苦情処理措置及び紛争解決措置の内容 .....	36
(5)資産運用費用明細表 .....	124	5. 個人データ保護について .....	38~39
(6)利息及び配当金等収入明細表 .....	124	6. 反社会的勢力との関係遮断のための基本方針 .....	63
(7)有価証券売却益明細表 .....	124	<b>Ⅷ. 特別勘定に関する指標等</b> .....	(該当ありません) 132
(8)有価証券売却損明細表 .....	124	<b>Ⅸ. 保険会社及びその子会社等の状況</b> .....	(該当ありません) 132
(9)有価証券評価損明細表 .....	124		
(10)商品有価証券明細表 .....	(該当ありません) 124		
(11)商品有価証券売買高 .....	(該当ありません) 124		
(12)有価証券明細表 .....	125		
(13)有価証券残存期間別残高 .....	125		
(14)保有公社債の期末残高利回り .....	125		

## あ

アソシエイツ	50
アフラック小児がん経験者・がん遺児奨学金制度	15
アフラック全国アソシエイツ会	51
アフラック・ダイジェスト	3～20
アフラックペアレンツハウス	15
アフラックメール	44
アライアンスサポートセンター	53
ありがとうがん保険	46
「生きる」を創る。	c2、6、10
営業体制	50～51
沿革	18～19
「お客様の声」を経営に活かす取り組み	34～37
オフィシャルホームページ	48

## か

格付け	25
がんに関する啓発活動	16～17
勧誘方針	43
危機管理態勢	68
企業理念	10
基礎利益	24、105
金融ADR制度	36
経営管理体制	60
決算ハイライト	22～25
研修・教育体制	54～55
行動指針	10
高齢のお客様への対応	35
ご契約者向けサービス(医療・介護)	47
個人情報の取り扱い	38～39
コーポレート・ガバナンス	60
ゴールドリボン運動	16
コンプライアンスの態勢	61～63

## さ

財務報告に係る内部統制評価	69
資産運用	27
失効契約への対応	45
社会貢献活動	14～17
商品開発	56～58
女性の活躍推進プログラム	11
情報セキュリティ	38～39
情報提供	43～46
新 生きるためのがん保険Days	56
ストレステスト	67
生命保険協会統一開示項目索引	134～135
生命保険契約者保護機構	133
組織図	74～75
ソルベンシー・マージン比率	25、99

## た

第一生命保険株式会社との業務提携	52
大同生命保険株式会社との業務提携	52
ダイバーシティの推進	11
ダックの医療相談サポート	57
ちゃんと応える医療保険EVER	57
ディスクロージャー(情報開示)	48
適切なお支払いのための取り組み	40～41
デメリット情報	44
店舗ネットワーク	76～77

## な

内部監査の態勢	70
内部管理態勢	60
日本郵政グループとの業務提携	52

## は

反社会的勢力への対応	63
ブランドプロミス	10
プレミアサポート	56
法人会(公益財団法人全国法人会総連合)	52
保険金・給付金等のご請求に関する取り組み	45
保険窓販	53

## ま

マネジメントメッセージ	4～5
もっとやさしいEVER	57

## や

役員一覧	72～73
------	-------

## ら

来店型店舗	12、51
リスク管理の態勢	64～67

## 英数

AANET	54
Aflac Incorporated	60、82
Aflac Japan マネジメントガイド	60
Aflac米国本社	78～79
CEOインタビュー	80～81
CSV(共有価値の創造)経営	6～10
ERM(エンタープライズ・リスク・マネジメント)	64～65
The Aflac Way	8、81
TOMODACHI アフラックプログラム	16、79